

Ⅱ 各教科編集の概要

国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 小学部第1学年第1巻は、点字学習のための導入教材とした「資料1」。点字の触読に習熟するための教材を片面書きで掲載している。編集の具体的内容で後述するとおり、点字を使用して学ぶ児童（以下「児童」とする。）等の実態に応じて必要な補助教材を準備することを期待する。

また各学年の巻数は、ページ数の増加による児童の負担を軽減することに配慮して、第1・2学年を3冊、第3・4学年を4冊に増やした。第1学年は、従来どおり第1巻を導入教材、第2・3巻を原典の上下巻に対応させている。第2学年は、第1巻が上巻、第2・3巻は下巻を分冊している。第3・4学年は、第1・2巻が上巻、第3・4巻が下巻をそれぞれ分冊している。第5・6学年は原典が1巻であるので、全4巻に分冊している。分冊箇所については以下の通りであるが、編集の基本方針(4)に示された原典のページでも確認できる。

第1学年	1-1 (点字導入編)	1-2 (上巻)	1-3 (下巻)
第2学年	2-1 (上巻)	2-2 (下巻P71まで)	2-3 (下巻P72から)
第3学年	3-1 (上巻P65まで)	3-2 (上巻P66から)	3-3 (下巻P77まで)
	3-4 (下巻P78から)		
第4学年	4-1 (上巻P67まで P133からの「ふるやのもり」は、ここに挿入)		
	4-2 (上巻P68から)	4-3 (下巻P75まで)	4-4 (下巻P76から)
第5学年	5-1 (P87まで)	5-2 (P137まで)	5-3 (P199まで)
	5-4 (P200から)		
第6学年	6-1 (P77まで P256からの「河鹿の屏風」は、ここに挿入)		
	6-2 (P135まで)	6-3 (P199まで)	6-4 (P200から)

- (2) 教材の修正については、児童の生活経験からは理解しにくいもの、または理解の程度や興味・関心の上から修正を加えた方がより理解しやすく、教材への親近感が高まると考えられる場合に限り行った。その上で、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では、次のような修正を行った。
- ① 普通の文字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。
 - ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と児童の理解度を考慮して、修正したり、削除したりした。したがって、指導の際には、適切な補助教材や説明等で補い読解を助けるように配慮する工夫が必要である。またノート例等では、児童自身が実際の学習で筆記できる形式となるように配慮して修正した(例：原典 第6学年P49, P80)。
 - ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、児童の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。
 - ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。
 - ⑤ 「右の」、「左記の」、「上の」、「下の」などの表現をそれぞれ「この」、「次の」、「前の」、「後の」などの点字表記の特性に合わせた表現に修正した。
 - ⑥ 「注」は原則として、該当ページの欄外に掲載した。
 - ⑦ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限り行い、原則として原典どおりとした。ただし、中点や逆三角印等を付した箇条書きについては、触読の特性を踏まえた上で全体の構成を理解しやすくするために、番号を付すなどの修正を行った。イラストに吹き出しのついたものは、発言形式であることがわかりやすいよう、名前を付して第1カギで囲んだ。
- (3) 国語の正しい理解を促すために、普通文字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基礎的な知識となるものを選定して掲載した。ただし、指導に当たっては、点字の学習を優先することを前提として扱ってほしい。
- ① 3年生上巻の「ひらがなとカタカナ」の単元で、普通文字のひらがなとカタカナの字形の一覧表を掲載した。これは、「机をコの字の形に並べる」など、日常生活のなかで話題に上りやすく頻繁に用いられる字形の理解を促進するための教材としてあげたものである。よく似た字形を探したり、自分の名前を確認したりするなど、児童の興味・実態に合わせて、楽しく触れ、触る負担にならない字形を中心に扱ってほしい。
 - ② 各学年の「漢字の広場」は、該当する漢字部分に第1カギを付けて示し、課題に取り組む際に必要なイラスト部分を言語化して挿入した。しかし、課題の内容上詳細な説明を加えることができないため、説明は必要

最低限のものにとどめた。指導に当たっては、課題の意図を踏まえた上で、児童の個々の実態に配慮しつつ工夫をされたい。

- ③ 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って92字を選定し、字形も掲載した。2年までの教材で字形が扱われなかったものは、1年3巻、2年1・3巻の巻末に掲載した。
- ・日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
 - ・部首のもとになる漢字
 - ・画数が少なく児童の負担になることのない漢字
- ④ 各教材の欄外及び教材末の漢字については、2学年までは「読み方が新しい漢字」と表題を付け、例1のように示した。3学年からはさらに「新しく学習する漢字」と「特別な読み方をする言葉」を加え、欄外掲載の語句をもとにそれぞれ例2、例3のように示した。このときの音および訓の掲載順は巻末の「この本で習う漢字」の掲載順とした。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。

例1 「読み方が新しい漢字」〔原典 第2学年上 P 9〕

「おん」どく（おと）

例2 「新しく学習する漢字」〔原典 第3学年上 P 13〕

「ひら」く（かい□ひら^ㇿ^ㇿく□ひら^ㇿ^ㇿける□あ^ㇿ^ㇿく□あ^ㇿ^ㇿける）□□「かい」てん□「かい」かい □□みちが□「ひら」ける□□ふたが□「あ」く□□ドアを□「あ」ける。

例3 「特別な読み方をする言葉」〔原典 第3学年上 P 16〕

「けさ」（こん□いま、□あさ）

- (4) 点字表記に関する新出事項は、該当の各教材末に掲載した。さらに第1学年から第5学年の各巻末には点字ドリルを掲載し、点字表記法に習熟するための教材とした^{資料2}。
- (5) 歴史的仮名遣いのうち、第3～6学年まで共通する「季節の言葉」等、古典学習をねらいとしないものはすべて現代仮名遣いで示した。第5・6学年の古典学習教材については、歴史的仮名遣い・現代仮名遣いそれぞれの表記を、児童の読みやすさを考慮しながら全文及び欄外注で示した。
- (6) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字200字を点字32マス 11行と対応させた。
- 例 400字（原典）→ 400字（点字32マス 22行）
- (7) ローマ字については、第4学年から第6学年に資料を再掲した。
- (8) 原典ページは、前述したとおり、ページ行に「^ㇿ」で挟んでページ行の左側に挿入した。児童への周知を意図し、目次の最後にこのことを掲載した。

2 編集の具体的内容

具体的な修正内容のうち、特記すべきものは以下のとおりである。

- (1) 大幅な差し替えや、レイアウト上の工夫を行った箇所については、3.「参考資料」として掲載した。また、この編集資料における修正内容の表記については、原典が分ち書きをしている2年上巻までを、分ち書きも含め、長音符号や仮名遣いなど、点字表記に近い形で表した。
- (2) 第1学年第1巻は、原典にはない「点字学習のための導入教材」として追加したものである。指導に当たっては、個々の児童の実態を十分に把握した上で、点字習熟に向け指導することが大切である。『点字学習指導の手引（平成15年改訂版）』（平成15年度文部科学省）などを参考にされたい。

また、点字教科書製本の都合上、ページを開けた際に書面が平面とはなりにくくなっている。入門期には、平らで適度な堅さの面に置かれた点字用紙で学ぶことが最も望ましい。児童の様子を十分観察しながら、必要に応じて同様の教材を作成したり、行間やマスを空けるなどの工夫及び指導の工夫をしたりすることが必要である。重複障害の児童生徒や中途視覚障害者への点字導入に際しても、同様の工夫を期待する。

なお、P1～P35までは、下の行の干渉を避けるために行間を9mmに広げてある。

一般的留意事項としては、以下のとおりである。

- ① 当初から両手読みの指導を重視する。
- ② 行の上に両手指を置き、両手の人差し指を軽く接触させることを基本にする。
- ③ 指先を立てずに、指先の腹をつかう。その際、強く押しつけすぎないように留意する。
- ④ 行たどり、行替えの動作の指導を大切に、両手の分業へとつなげられるようにする。
- ⑤ 点の位置の弁別学習を十分に行い、点字の1マスの枠組みが理解できるようにつとめ、安易に文字としての指導に進まないように留意する。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	1		修正	「はる」 (扉の絵のうち、チョウ、小鳥の点図をいれた。)	編集の具体的方針(2)による。
	10		修正	「なんて いおうかな」 (絵を次のように修正した。) あさ きょーしつに はいりました なんて いおーかな きょーしつで せんせいに あてられました なんて いおーかな しょくいんしつに いきました なんて いおーかな ほけんしつに けがを した ともだちを つれて いきました なんて いおーかな ともだちが ころびました なんて いおーかな ともだちが おもい ばけつを もって います なんて いおーかな ともだちが ぼーるで あそんで います なんて いおーかな ともだちを あそびに さそいたいなど おもいました なんて いおーかな かえりの あいさつを しました なんて いおーかな	編集の具体的方針(2)による。
	12		修正	「どんな おはなしかな」 (挿絵を次のように修正した。) いろいろな おはなし 「ぼく、 だんごむし」 「かいじゅーたちの いる ところ」 「バナナ」 「ダレ ダレ ダレダ」 「キャベツくん」 「だいくと おにろく」	編集の具体的方針(2)による。
14		削除 修正	「せんせいに あわせて いって みましよう。」 P14の詩は削除し、P15の詩は下記のように修正した。 あしわ ペったん せなかわ ぴん おなかと せなかに ぐー ひとつ じゅんぴが できた さあ かこー	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	16		修正	「どうぞ よろしく」 (挿絵のカードを次のように修正した。) カードを こーかん しましょー。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ たにむら けん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ やまもと たかし</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ すずき りん</div>	編集の具体的方針(2)による。
	18		修正	「こえの おおきさ、どう するの」 (絵を次のように修正した。) きょーしつで みんなの まえで はっぴょー する とき となりの せきの ともだちと おはなし する とき ろーかで ともだちと おはなし する とき うんどーじょーで ぼーる あそびを して いる とき	編集の具体的方針(2)による。
	20		修正	「うたに あわせて あいうえお」 (太陽を点図で入れる。)	編集の具体的方針(2)による。
	24		削除 修正	「ことばを つくろう」 (絵を削除し、次のように修正した。) あ い う え お あり いか うし えき おに あひる いるか うきわ えほん おかし	編集の具体的方針(2)による。
	26		削除 修正	タイトルを「ふたりで おはなし」にする。 (絵を削除してP26, P27を次のようにした。) 「なにが いますか。」 「さるが います。」 「どこに いますか。」 「きの うえに います。」 「なにを して いますか。」 「りんごを たべて います。」 「なにが いますか。」 「ぶたが います。」 「どこに いますか。」 「さくの なかに います。」 「なにを して いますか。」 「はしって います。」 「なにが いますか。」 「かえるが います。」 「どこに いますか。」 「いけに います。」 「なにを して いますか。」	編集の具体的方針(2)による。 * この教材は文章化することが目的ではなく、児童同士あるいは児童と教師でお話をしながら進めていく課題である。点字教科書の文例を参考にしながら説明を加え、話し言葉によるコミュニケーションの初歩を身につけられるような指導の工夫が期待される。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上				「うたを うたって います。」 ほかにも どーぶつが います。 すずめ きつつき ねこ いぬ うま りす うし にわとり こい うさぎ きつね くま おおかみ かもめ くじら しか	
	28		削除 修正	「かきと かぎ」 (清音の語と濁音の語の組は挿絵を削除し、各組ごとに棒線でつなげて掲載した。)	編集の具体的方針(2)による。
	40		削除 修正	「ぶんを つくろう」 (挿絵を削除し、言葉で空欄部分を補って文にした) きつねが はしる。 さるが おちる。 ぶたが ねる。 ひまわりが さく。 こまが まわる。 くるまが はしる。	編集の具体的方針(2)による。
	41	2	追加	「ぶんを つくろう」(次の文を追加) ぶんの かきはじめわ ふたマス あけましょー。	編集の具体的方針(2)による。
	42		削除 修正	「ねこと ねっこ」 (清音の語と促音の語の組は挿絵を削除し、次のようにした。) ねこ — ねっこ はらっぱ いっしょ しっぽ	編集の具体的方針(2)による。
	44		削除 修正	「わけを はなそう」 (絵を削除し、次のように修正した。) わけを はなそー わたしは よろこんで いる。 ないて いる。 おどろいて いる。 どーしてかと いうと、 あさがおの ふたばが だた。 さくひんを ほめられた。 いしに つまづいて ころんだ。 ともだちに ぼーるを とられた。 ろーかで ともだちに ぶつかりそーに なった。 いぬに ほえられた。	編集の具体的方針(2)による。
	46		削除 修正	「おばさんと おばあさん」 (同列の長音の語の組は挿絵を削除し、各組ごとに棒線でつなげて掲載した。)	編集の具体的方針(2)による。
	48-55		修正 削除	「くちばし」(きつつき、おうむ、はちどりのくちばしを点図で挿入、写真は削除。P55は削除する。)	編集の具体的方針(2)による。
	58		削除 修正	「おもいだして はなそう」 (絵を削除して次の文を追加した。) がっこーでの ことや いえに かえってからの ことを おもいだして はなしましょー。	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	65		修正	<p>「おおきく なった」 (あさがおの観察カードを点線枠で閉じた) かんさつ かーど</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>6がつ 15にち あさがお</p> <p>すずき はるか</p> <p>はっぱ おおきさわ, わたしの てと おなじくらい。 いろわ, うすい みどり。 さわった かんじわ, ちくちく して いる。 「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>かんさつ かーど</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>6がつ 23にち あさがお</p> <p>あべ なおき</p> <p>つる たかさ — ぼくの おなかの たかさ。 いろ — みどり かたち — くるくと まいて いる。 「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	77		追加	<p>「わ を え を つかおう」 (単元末に次の分かち書き教材を追加した。) わかちがきに きを つけましょー。 わたしわ 1ねんせいです。 はなわ きれいです。 と いう ぶんを わたしわ1ねんせいです。 はなわきれいです。 のよーに つづけて かいてわ いけません。</p> <p>つぎの ぶんを ただしく かきましょー。 えきえおとーさんをむかえにいきます。 へやのなかえはいります。</p>	編集の具体的方針(2)(3)による
	90		削除修正	<p>「おおきな かぶ」 おはなしを, みんなで たのしみましょー。 (絵を削除し, 次のように修正した。)</p> <p>1. やくを きめて よもー なれーたー(りん)「おじいさんが, かぶの たねを まきました。」 おじいさん(なおき)「あまい あまい かぶに なれ。」</p> <p>2. うごきながら こえに だそー (かぶを ひっぱって。)</p> <p>おばあさん(はるか)「うんとこしょ, どっこいしょ。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	92		削除修正	<p>「ほんは ともだち」 (絵を削除し, 書名は第1カギで囲んで「このほんよ</p>	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上				もう」に掲載し、本文は次のように修正) としよしつで すきな ほんを さがしました。 あき 「いろいろな ほんが あるね。」 ゆき 「いっしょに よもー。」 まり 「この ほんが おもしろいよ。」 りょーた 「むしの ほんわ あるかな。」 ゆきお 「この こんちゅーの ほんわ しゃしんが いっぱい あって、おもしろそー。」 きょーしつで、さがした ほんを しょーかい しました。 ゆきお 「この ほんにわ、 みた ことの ない むしが、たくさん のって います。 よんで いると たのしく なって きます。」 まき 「いちばん おもしろかった ところを よみます。 きいて ください。」	
	103		修正	「ひらがな あつまれ」 (「ことばをつなげよう」では右向き矢印を使ってつ ながりを示し、挿絵を文字であらわして列挙した。)	編集の具体的方針(2) による。
	113		削除 修正	「かたかなを みつけよう」 (挿絵を削除し、次のようにした。) つぎの ことばも かたかなで かきます。 ボール スコップ バケツ ジャングル ジム ズボン ポケット	編集の具体的方針(2) による。
	120		修正 追加	「かずと かんじ」 (数え方にお金の数え方を追加し、一から十の漢数字 を点線文字で挿入した。) 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 (絵を削除し、おりがみ、りんご、えんぴつ、さら、 ともだち、ニンジン、おにぎり、くるまの数え方を入 れた。)	編集の具体的方針(2) (3)による。 *漢字の字形(10字)
	124		削除	「よこがきの かきかた」	編集の具体的方針(2) による。
1下	18		削除 修正	「しらせたいな、みせたいな」 「えと」、吹き出しの「えからせんをひいて」は削除 (モルモットのもこの説明を、次のように文章化し た。) モルモットの もこ しろと ちゃいろと くの ふわふわ した け もぐもぐ たべる まるくて くらい め はなの まわりの ながい ひげ	編集の具体的方針(2) による。
	21		削除 修正	「まちがいを なおそう」 (挿絵とカードのイラストを削除し、本文中の「おば あちゃん」を「おばーちゃん」とする。)	編集の具体的方針(2) による。
	22		修正	「かん字のはなし」 山 水 雨 上 下 (点図と点線文字で挿入) 日 木 田 川 林 森 月 (点線文字で挿入)	編集の具体的方針(3) による。 *漢字の字形(12字)

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下	29 32		修正	「じどう車くらべ」 (セダン型乗用車の点図を入れ、ノート例を次のように修正する。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> バスや じょーよーしゃ 1. しごと — 人を のせて はこぶ しごとを して います。 その ために, 2. つくり — </div>	編集の具体的方針(2)による。
	36			「かたかなを かこう」 (次のように修正した) カタカナで かく ことば ふつーの もじの ぶんにな、 ひらがなの ほかに カタカナが つかわれて います。 つぎの ことばわ、カタカナで かきます。 バス トラック タイヤ クレーン ノート (1) のばす おんの 書きかたに 気をつけましょー。 ソース ロープ コーヒー ノート スキー (2) つぎの ことばにな、 ふつーの もじで 小さく かく かたかなが あります。 ヘルメット ポケット シャベル ニュース チョーク	編集の具体的方針(3)による。
	38-39		移動	「まの いい りょうし」 (P39の後に、P128～P131を掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	40-44		削除修正	「むかしばなしが いっぱい」 (絵は削除し、次のようにお話のタイトルを掲載) 1. にほんの むかしばなし 「ももたろー」「うらしま たろー」「ねずみのすもー」「かぐやひめ」「あかたろー」「きんたろー」「ききみみ ずきん」「さるかにがっせん」「わらしべ ちょーじゃ」「つるの おんがえし」「3ねん ねたろー」「うりこひめ」「ぶんぶく ちゃがま」「かさじぞー」「てんぐの かくれみの」「はなさか じいさん」「ゆきおんな」「かちかちやま」「したきり すずめ」 2. せかいの むかしばなし 「シンデレラ」「ブレーメンの おんがくたい」「ヘンゼルと グレーテル」「ながぐつを はいたねこ」「はだかの おーさま」「ねむりひめ」「あおい とり」「3びきの くま」「しらゆきひめ」「3びきの こぶた」「きんの がちょー」「ラ プンツェル」「おやゆびひめ」「ハメルンの ふえふき」「にんぎょひめ」「きたかぜと たいよー」「みにくい あひるの こ」「あかずきん」「アラジンと まほーの ランプ」「おおかみと 7ひきの こやぎ」「うさぎと かめ」「ジャックと まめの き」	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下	45		修正	<p>(「おはなしノート」を次のように修正した。)</p> <p>「おはなし ノート</p> <p>1. よんだ 日や, よんで もらった 日</p> <p>2. だいまいと おはなし</p> <p>3. おもしろかった しるし (まるの かず)</p> <p>1. 11月 17日</p> <p>2. 「3びきの こぶた」 (こぶたと おおかみがでてくる おはなし。)</p> <p>3. 2じゅーまる</p> <p>1. 11月 18日</p> <p>2. 「ぶんぶく ちゃがま」</p> <p>3. まる</p> <p>...</p>	編集の具体的方針(2)による。
	46		修正	<p>「ともだちに, きいてみよう」 (本文下の吹き出しとメモを次のようにして本文の後に掲載)</p> <p>なおき 「いま, いちばん たのしいと おもうことわ なんですか。」</p> <p>はるか 「なわとびを する ことです。」</p> <p>「なわとび おねえさんと いっしょに, まい日 している。 2じゅーとびを, 5かいも とべる。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	48		修正	<p>「日づけと よう日」 日 月 火 水 木 金 土 (点線文字で挿入)</p>	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(7字)
	62		修正	<p>「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」 (「おはなしの木」のカードを次のように修正)</p> <p>「おはなしの 木」 カード</p> <p>1. ほんの だいまい 「ずーっと, ずっと, 大すきだよ」</p> <p>2. おはなしに 出てくる 人や どーぶつ 犬の エルフが 出て きます。</p> <p>3. すきな ところや, おもしろかった ところ エルフに, まいばん, 「ずーっと, 大すきだよ。」と いって やる ところが すきです。</p> <p>4. じぶんの なまえ さいとー しょーた</p>	編集の具体的方針(2)による。
	70		修正	<p>「ものの 名まえ」 (お店屋さんごっこの様子を次のようにした)</p>	編集の具体的方針(2)による。


学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下				<p>はなの おみせ うって いる もの — ひまわり, ゆり, きく, すみれ, らん, すいせん, あじさい, ばら 「こんにちわ。」 「いらっしやい。」</p> <p>□のおみせ うって いる もの — バナナ, イチゴ, リン ゴ, みかん 「りんごを ひとつ ください。」 「ありがとー ございます。」</p> <p>がっきの おみせ うって いる もの — トライアングル, たい こ, てっきん, すず, ピアノ, タンブリン, もっきん 「ピアノわ ありますか。」 「はい, あります。」</p> <p>□のおみせ うって いる もの — あじ, さんま, ひらめ, たい 「あじを ください。」 「はい。 1ぴきで いいですか。」</p>	
72-73			修正	<p>「かたかなの かたち」 (次のようにひらがなとカタカナを点線文字で挿入) (1) かたかなと ひらがな てんじ カタカナ ひらがな 「か」 カ か 「き」 キ き 「せ」 セ せ 「へ」 ヘ へ</p> <p>(2) かたかなと かたかな 「ン」 ン 「ソ」 ソ 「マ」 マ 「ア」 ア 「ヌ」 ヌ 「ス」 ス 「つ」 ツ 「シ」 シ</p> <p>(かたちにかきをつけてかきましょう。を次のように修正した。) つぎの ことばも かたかなで かきます。 ネクタイ シャワー デパート オルガン エプロン ミシン カヌー ソース アイロン パン マフラー シーツ</p>	編集の具体的方針 (2) (3) による。 *カタカナ・ひらがなの 字形
	72	3	削除	ふろくの, 「かたかなとひらがな」を見て, にてい るかたちの字をさがしましょう。	編集の具体的方針(2) (3) による。
	86		削除 修正	「たぬきの 糸車」 (挿絵を削除し, 文章化)	編集の具体的方針(2) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下				(1) たぬきが やぶれ しょーじの あなからのぞいて いる ところ (2) たぬきが わなに かかっている ところ (3) たぬきが じょーずな 手つきで、糸をつむいで いる ところ (4) たぬきが ぴよんぴよこ おどりながらかえって いく ところ	
	91		修正	「これは、なんでしょう」 (カードを次のように修正) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 とけい まるい がっこーに ある じかんが わかる いつも うごいて いる ・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	99		修正 削除	(文を次のように修正、本の写真は削除) 3. ゴー、パンダ、チンパンジー、ペンギンなどほかの どーぶつの 赤ちゃんと、くらべて みましょー。 (該当) ページの カンガルーの 赤ちゃんと くらべても いいですね。 くらべて よむと、ちがいが よく わかります。	編集の具体的方針(2)による。
	102 - 103		修正	「にて いる かん字」 (課題文を修正し、各漢字は読みと点線文字で掲載) 1. つぎの ぶんの 「・・・」の ところわ、かたちの よく にた かんじです。 「かい」を 「み」つける。 「ひと」が 「はい」って くる。 「みぎ」あしで 「いし」を ける。 「はや」おきをして、 「くさ」とりを する。 「がっ」こーで も「じ」を ならう。 「みぎ」を みて、「ひだり」を みる。 「つち」を もり「あ」げる。 2. にて いる かんじ 貝 見 人 入 右 石 早 草 学 字 右 左 土 上	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(14字)
	124	6	修正	(文の修正) 写真を見て → しゃしんなどで おもい出したり、	編集の具体的方針(2)による。
	126	下欄	修正	(下段の内容を以下のように修正) つぎの じゅんに かきましょー。 (1) した こと, あった こと (2) いわれた こと, いった こと (3) おもった こと	編集の具体的方針(2)による。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 (1年生配当漢字の中から次の漢字を点線文字で掲載) 大 犬	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(2字)

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2上	4	下10	修正	「いつもきをつけよう」 (文を修正して掲載) 「ー」「を」, 正しく つかう。	編集の具体的方針(2)による。
	7	下13	削除	(次の文を削除) 声を出さないで、手の動きなどを使って並ぼう。	編集の具体的方針(2)による。
	19		修正	(絵を削除し、文章化して掲載) 次の(1)と(2)を、「・・・と」でつないで、文にしましょー。 (れい) (1) はるかぜが ふく (2) たけやぶが ゆれる はるかぜが ふくと、 たけやぶが ゆれる。 (1) ぼたんを おす (2) かえるの おもちゃが とびだす。 (1) 水の 入った コップに 氷を 入れる (2) コップの 水が あふれる	編集の具体的方針(2)による。
	20-21		削除 修正	(きせつのことば)「はるがいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵の言葉を列挙。最後に、すみれ・ちょう・つくしの点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	22-23		修正	今週のニュースの部分は、ニュースと感想に分け、感想には「・・・さんえ」と付記し、書いた人の名前は第1カッコで囲む。	編集の具体的方針(2)による。
	24-29		修正	「たんぼぼのちえ」(たんぼぼの花、広がった綿毛、すぼんだ綿毛の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	33		修正	「かん字のひろば1」[資料1]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	34-39		削除 修正	「かんさつ名人になろう」(写真・挿絵を削除) ・観察記録の前に、「観察記録 かたつむり」「観察記録 ミニトマト」と表題を付けた。 ・欄外の注意事項は観察記録の前に掲載。	編集の具体的方針(2)による。
	40-41		修正 移動	「いなばの白うさぎ」 (P40の後に、P117～P119を掲載)	編集の具体的方針(2)による。 ※ 文章が掲載されているが、「きいてたのしもう」の教材である。教材の目標に沿った指導となるよう配慮してほしい。
	42		削除 修正	(この本、読もう) (絵を削除し、書名を第1カギで、都道府県名を北から順に第1カッコで囲んで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	43		修正	「かたかなのひろば」[資料2]	編集の具体的方針(2)による。
	44-45 46 46	9 13	削除 修正 削除 修正	「ともこさんはどこかな」(絵は削除) ・「絵の中のほかの子どもを選んで」を「ほかの子どもについて、自分で考えて」 ・「下の絵を見て」を「次のメモを読んで」 (持ち物の絵を削除して言葉にして掲載)	編集の具体的方針(2)による。 ※「大事なことを落とさずに、話したり聞いたりする(話す・聞く)教材

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2上				(メモ) 月よう日 えんそくの もちもの しきもの べんとー すいとー おしぼり あまがっぱ	として、絵の中から指示通りの対象を探し出す過程は削除した。指導に当たっては、教材の意図をより効果的に児童に伝えるために、適切な触察教材等を指示通りに探し出すなどの代替案の工夫が望ましい。
	47	下段	修正 削除 修正	「おとの高さ」 ・「雨(あめ)」を、ふる「あめ」 ・「ひらがなで書くと」を削除 (挿絵を削除し、文章化して掲載) つぎの れいも かんがえて みましょー。 わたる 「はし」 食べる ときに つかう 「はし」 たてものの 「しろ」 いろの 「しろ」	編集の具体的方針(2)による。
	48	4	修正	「同じ部分を持つ漢字」 (課題文を修正し、漢字を読みと点線文字で掲載) かん字にわ おなじ ぶぶんを もつ ものが あります。 つぎの かん字で、同じ ぶぶんを さが しましょー。 き はやし もり 木 林 森 むら やす_む 村 休 ほん 本	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(6字)
	49	1	修正	(課題文を修正) つぎの 「…」を つけた 部分わ、形が よく いた かんじです。 (漢字を読みと点線文字で掲載) がく じ いま かい かたな きれる 学 字 今 会 刀 切	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(6字)
	52		修正	「スイミー」 (「まぐろに追われているスイミー」と「大きな魚のふりをしたスイミーたち」の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	62	下段	修正	「お話と絵を」を「お話を」	編集の具体的方針(2)による。
	63		修正	「かん字のひろば2」[資料3]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	69	上段 9-11 下段	修正 削除	「丸、点、かぎ」 (上段9行目以降と下段を削除し、次のようにした) ふつーの 文字にわ 分かち書きの きまりが ありません。 また、「わたしわ」の 「わ」わ 「わたしは」と 書きます。「あなたえ」の 「え」わ	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2上				「あなたへ」と書きます。	
	91		修正	「かん字のひろば3」[資料4]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	92-93		削除修正	(きせつのことば)「なつがいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵の言葉を列挙。最後に、くわがたむしの点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	100		修正	「カンジーはかせの大はつめい」 (「門」と「日」で「間」になることを点線文字で示し、説明文も付加) 門 → きかい 間 日 → 1. つぎの「・・・」をつけた二つのかん字を入れると、あたらしいかん字ができあがります。 「田」と「力」で「男」 「山」と「石」で「岩」 「日」づけと「生」まれるで「星」 「糸」と「会う」で「絵」	編集の具体的方針(2)(3)による。 *漢字の字形(3字)
	101	下段	修正	2. 「・・・」をつけたかん字の矢を弓でとばすと、つぎのかん字のまどに当たりました。どんなことばができますか。 「はな」→もえる「ひ」 「はなび」 「さき」→「う__まれる」 「せんせい」 「な」ふだ→「まえ」 「なまえ」 「ただ__しい」→「もん」をあける「せいもん」 かみの「け」→「いと」 「けいと」	編集の具体的方針(2)による。
	112	上段	修正	「どうぶつ園のじゅうい」 (表の各項目ごとに改行し、棒線でつないで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	113	下段	修正	児童の文章の前に、「ふじいさんのはなし」と表題を付けた。	編集の具体的方針(2)による。
	120-121		削除修正	(この本、読もう) (挿絵を削除し、書名を第1カギで、作者名を第1カッコで囲んで掲載。絵の作者は削除)	編集の具体的方針(2)による。
	巻末		追加	「おぼえて おきたい かん字」 (1年生配当の漢字の中から次の20の漢字を点線文字で掲載) 目 耳 手 足 口 円 文 正 王 玉 男 女 米 先生 糸 車 虫 竹 花	編集の具体的方針(2)(3)による。 *漢字の字形(20字)
	2下	4	下段	修正	「は」「を」「へ」を「ー」「を」に修正。
18		下段	修正	「お手紙」 「書き入れましょう」は、「書きましよう」と修正。	編集の具体的方針(2)による。
21-22			修正	「主語と述語」 ・分節末に()で囲んで、添え字を示した。 (1)がまくんが(だれが) 言いました(どうした)。 (2)かえるくんは(だれは), まどからのぞきました(ど	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2下				うした)。 (3)お手紙が(何が) 来る(どうする)。 (4)がまくんは(だれは), かなしそうだ(どんなだ)。 (5)これは(何は), お手紙だ(なんだ)。	
	22	上段		・傍線と波線は削除し, それぞれ(主語)(述語)と文節末に挿入した。	編集の具体的方針(2)による。
		下段	削除追加	(絵を削除し, 状況説明を付加) 高い木の枝に帽子が引っ掛かっている。 女の子が困った顔で「ぼうしが。」 せんせい「どうしたの。」	編集の具体的方針(2)による。
	23	下段	修正	「かん字の読み方」 この文の中には, 二つの漢字が3回ずつ出てきました。次の「・・・」の部分は, 同じ漢字です。 (1)「9」がつ 「ここの」か 「9」さい (2)ここの「か」 「にち」ようび にちよう「び」	編集の具体的方針(2)による。
	24		修正	「上」「下」の読みと点線文字を掲載し, 送り仮名部分には第二つなぎ符を付けた。 上 下	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(2字)
	25	上段	修正	「あ ^ニ げ ^ル 」 「のぼ ^ニ る ^ニ 」のような, ^ニ の後に続けて書くなを, 「おくりがな」と言います。	編集の具体的方針(2)による。
	26-27		修正	(きせつのことば) 「あきがいっぱい」 (挿絵を削除し, 挿絵の言葉を列挙。最後に, もみじの点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	28		削除修正	「お話のさくしゃになろう」 (挿絵を削除し, 文章化して掲載) (はじめ) 朝, 木の上に住んでいる虫が, 巣から出てきました。 (なか)  (おわり) 夕方, 虫が元の巣にもどりました。	編集の具体的方針(2)による。
	29		修正	(絵に関わる部分を修正) 「はじめ」と「おわり」は, 前の文に合わせて書きます。次のことを決めましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	30		削除修正	・挿絵を削除し, 主語を「虫が」として文章にした。	編集の具体的方針(2)による。
	31		修正	・児童が考えた話の前に「くぼさんが考えたお話」と表題を付けた。	編集の具体的方針(2)による。
	32		修正	・児童の作品の題名を「じんぶつのしょうかいからはじめる例」「むかし話のはじまりのように書きだす例」と修正した。	編集の具体的方針(2)による。
		7	削除	・「絵もいっしょにかきましょう」を削除。	
34	上段	修正追加	「かたかなで書くことば」 (かたかなは第1カギで囲み掲載) 次の「・・・」を付けた言葉は, 普通の文字ではかたかなで書きます。	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2下	35		修正	「かたかなで書くことば」[資料5]	編集の具体的方針(2)による。
	36-37		削除修正	<p>「しかけカードの作り方」(カード写真削除, 文章化)</p> <p>ピクニックに出かけよう</p> <p>おじいちゃん, おたんじょうびおめでとう。</p> <p>なみより</p> <p>1ねん1くみの あらかよしあきさんへ 21にちの1じかんめと2じかんめに, たいいくかんで、あきまつりをします。 ぼくは、どんぐりでネックレスをつくりました。 あそびにきてください。</p> <p>2ねん1くみ おおかわけんより</p>	編集の具体的方針(2)による。
	37	2	修正	「しかけカードの作り方」(文を次のように修正) ここに、開くと、かざりがとび出すしかけのカードの写眞があります。	編集の具体的方針(2)による。
	38	2	修正	(カードの作り方の図を削除し、文を修正して掲載) 色画用紙を縦長におき、上と下の端を合わせ半分に折って、折った方から、真ん中に切り込みを2本入れます。	
	39	6	削除	「しゃしんのように」を削除	
	40	5	削除	「しゃしんのように」を削除	
	41	下段 8	修正	「こんなことばやしゃしんが」を「こんなことばや見本が」に修正	
	42	上段 11	修正	「絵やしゃしん」を「絵や見本」に修正	
	42	下段	削除修正	<p>「おもちゃの作り方」(写真を削除し、言葉で掲載)</p> <p>(生活科や図画工作の時間に作ったおもちゃ)</p> <p>まらかす けん玉 おきあがりこぼし どんぐりごま ぶんぶんごま びよんびよんがえる ストロートンボ 風で動く車 ゴムで動く車 水に浮かべるヨット</p>	編集の具体的方針(2)による。
	43	下段 10	修正	<p>「どんな絵やしゃしんが入ると」を「どんな絵や見本を使うと」に修正</p> <p>(吹き出しの文を修正)</p> <p>「言葉だけでは分かりにくいところは、見本を見せるようにしよう。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
45		削除修正	<p>「けん玉の作り方」(挿絵は削除。欄外は作り方の後に文を修正して掲載)</p> <p>「絵やしゃしんは、文しょうと」は「絵や見本は、文しょうと」に修正</p>	編集の具体的方針(2)による。	
46		修正	<p>「あったらいいなこんなもの」</p> <p>(ドラえもんは点図で挿入)</p>	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2下	49	下段	修正	(下段の点線枠部分) 「佐々木さんが考えたこと」 (1) 名前を工夫したんだ。～ (2) はたらきは先に言ってもいいかな。～ (3) 「空でちゅうがえりができる。」のあたりで早口になっちゃう。 (4) 「背中に背負えるくらいの大きさ。」は、いい思い付きだから知ってもらいたい。	編集の具体的方針(2)による。
	52, 53 53	下段	修正 削除 修正	(傍線は第1カギに囲んで示した) (挿絵を削除し、次のように言葉を補って掲載) ぼうしを「ぬぐ」←→「かぶる」 しゃつを「ぬぐ」←→「きる」 ずぼんを「ぬぐ」←→「はく」 くつしたを「ぬぐ」←→「はく」 くつを「ぬぐ」←→「はく」	編集の具体的方針(2)による。
	67	下段	修正	「わたしはおねえさん」 児童の作文の前に「くぼさんが書いた文」と表題を付けた。欄外の言葉は、それぞれの段落後に()で囲み示した。	編集の具体的方針(2)による。
	69		修正	「かん字のひろば4」[資料6]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	70-71		削除 修正	(きせつのことば)「ふゆがいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵の言葉を列挙。最後に、ひいらぎ、雪の結晶の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	74	5	削除 修正	「ようすをあらわすことば」 (写真を削除し、文を修正して掲載) ここに大雨がふっている写真があります。	編集の具体的方針(2)による。
	77	3	修正	様子を表す言い方のうち、どれかを使って、次のものの様子を文にしてみましょう。 (1) 青い空と入道雲。山の上には鳥が飛んでいる。 (2) 散歩中の犬が、通りかかった人にほえ、飛びつこうとしている。 (3) ステージにいる女の人に、客席から大勢の人が拍手をしている。	編集の具体的方針(2)による。
	78	脚注	修正	挿絵を削除し、「ペンペン草 なずなのこと。」と掲載。	編集の具体的方針(2)による。
	80-81		削除 修正	「三まいのおふだ」(挿絵を削除し、P138～P144の文章を挿入)	編集の具体的方針(2)による。 ※文章が掲載されているが、「聞いてたのしもう」の教材である。教材の目標に沿った指導となるよう配慮してほしい。
	88	下段	修正	(表の前に「おにごっこについて」と表題を入れる。	編集の具体的方針(2)
	91		修正	「かん字のひろば5」[資料7]	編集の具体的方針(2)(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2下	96		削除 修正	「なかまのことばとかん字」（挿絵は削除し、項目ごと に言葉を並べ、次の漢字を点線文字で掲載） 父 母 子 百 千 万	編集の具体的方針(2) による。 *漢字の字形（6字）
	117	2 4 4 5	修正 挿入 修正 修正	「ことばを楽しもう」（文を以下のように修正） 前から読んだり，後ろから読んだりしましょう。 次の（ ）内は，後ろから読むときに使います。 ぞー（う）くんぱんくう（ー）ぞ きんのは（わ）とは（は）のんき	編集の具体的方針(2) による。
	122- 123		修正	（下段を以下のように修正） （はじめ）ー 心に残ったことは何かを書く。 （1）「スイミー」というお話を勉強したこと。（1段落 該当ページ行） （なか）ー その時にしたことや，思ったことなど を書く。 （1）お話を読んだ感想を書いたこと。（2段落 該当 ページ行） （2）音読の練習をしたこと。（3段落 該当ページ 行） （おわり）ー いちばん書きのこしておきたいこと を書く。 （1）「スイミー」のお話で一番すきなところ。（4段落 該当ページ行）	編集の具体的方針(2) による。
	124		修正	（文を以下のように修正して掲載） 次のことを，確かめましょう。 （1）「ー を」や「きゃ きゅ きょ」，つまる音 などは，正しく使えていますか。 （2） ∴ （まる） ∴ （てん） ∴ ∴ （かぎ）は， 正しく使えていますか。 （3）分かち書きは正しくできていますか。	編集の具体的方針(2) による。 *点字表記に関する基本的な留意点を追加して修正した。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」（おぼえておきたいかん 字として、2～4年生配当漢字の中から次の25の漢 字を点線文字で示した。） 雨 空 天 弓 刀 牛 魚 肉 言 工 士 立 止 力 出 早 夕 心 青 白 年 中 小 町 丁	編集の具体的方針(2) (3)による。 *漢字の字形（25字）
3上	4	下段	削除 削除 削除	「三年生の学習を見わたそう」 （各单元についている四つ葉マークを削除） （「 <input type="text"/> の中に」を削除） （次の文を削除） 四つ葉マークは，学習したら，色をぬりましょう。	編集の具体的方針(2) による。
	6 7	下3 下5 下6 上13	削除 修正 修正 修正	「いつも気をつけよう」 （記号（。）（，）（「」）を削除） （文を修正して掲載） 「ー」「を」を正しく使う。 （文を修正して掲載） 調べたり，聞いたりして分かったことが，…。 （文を修正して掲載） 図や説明と文章を合わせて読む。	編集の具体的方針(2) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上		下段	修正	「つづけてみよう」 (ノートについて資料のように修正) [資料8]	編集の具体的方針(2)による。
	8	3	修正	「よく聞いて、じこしょうかい」 (文を修正して掲載) じゅんばんに話せるように、バトンになるようなものを回してもいいですね。	編集の具体的方針(2)による。
	12	7	修正	「きつつきの商売」 (太字を第1指示符で囲み、掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	16	欄外	削除 追加	☺☺おとや☺☺ (欄外の「たちつぼすみれ」の挿絵は削除し、以下の説明文を脚注として追加) たちつぼすみれ ― 春、うすむらさき色の花をつける草花。花が咲いた後、伸びて、30センチメートルくらいになる。 (欄外の「々」の脚注を削除)	
	18	欄外	削除		
	23	下段	追加 修正	(ノートの前に「山口さんのノート」と追加) (文を修正して掲載) 「わたしが読むところに、読み方を書いておこう。」	編集の具体的方針(2)による。
	25	下段	修正	「国語辞典の使い方」 (国語辞典の例について資料のように修正、「はしら」の説明は次ページ「つめ」の説明とともに欄外注に掲載) [資料9]	編集の具体的方針(2)による。
	26	上2	修正	(文を修正して掲載) 普通の文字の辞典では、見出し語をさがすときは、「つめ」や「はしら」をつかいます。…点字の辞典でも、ページ行に見出しが書かれています。 (「つめ」の説明の最初に「ページをめくる側につけられているもの。」という文を追加。「はしら」の説明の最初に「ページの上のすみにあり、」という語句を追加し、欄外注に掲載)	
		下10	修正	(文を修正して掲載) …「しいる」「ぷうる」のように伸ばすところが「あいうえお」におきかえられて、なっています。	
	27	上3	修正	(文を修正して掲載) 国語辞典では、ふつう、「かく」「ふかい」「しずか」のような形が、見出し語です。	
	下4	修正	(語句を修正して掲載) (しずかに)「くらす(ひらがな)」と(あかるい)「クラス(カタカナ)」		
28	下1	修正	「漢字の音と訓」(文を修正し、例語はそれぞれ該当の語に第1カギを付けて掲載) たとえば、前の文の「・・・」をつけた部分の漢字には、次のような二通りの読み方があります。	編集の具体的方針(2)による。	
29	上7 ~13	修正	(文を修正して掲載) たとえば、中国語では、「サン」というような発音で読んでいる漢字がありました。そこで、日本でも「サン」と読みました。これが、「音」です。 また、日本では、古くからその「サン」という漢字		




学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上				が表す「まわりの土地より高くなっている所」のことを、「やま」とっていました。	
	30	下段		「春の楽しみ」 (ノートの図について、以下のように修正) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 春の楽しみ 遠足—おにぎり おやつ 草遊び 花つみ ・・・・・・・・・・・・・・・・	編集の具体的方針(2)による。
	32			「よい聞き手になろう」 新聞で知ったニュース)の後改行し、「(大田さんの発表)」という語句を追加)	編集の具体的方針(2)による。
	34	上4	追加		
	36		修正	「きちんとつたえるために」 [資料10]	編集の具体的方針(2)による。
	38	下7	修正 削除 修正	「こそあど言葉」(文の修正) こそあど言葉を使う時は、相手が自分と同じものをさして言っているかどうか、気をつけましょう。 (イラストを削除し、以下のように修正) (れい)岡野さんと新藤さんが、ファストフード店の看板を見えています。 岡野(ソフトクリームを指さして)「あれ食べようよ。」 新藤(ホットドッグを指さして)「いいね。」	
	39		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字1」 [資料11]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	40	脚注 2～ 9	修正 修正	「言葉で遊ぼう」 (脚注「段落」の2文目を「はじめをニマスあけて表す。」に修正) (傍線部及び下段の課題文について、資料のように修正し、本文の後に挿入) [資料12]	編集の具体的方針(2)による。
	42～47 49	下段	削除 修正	「こまを楽しむ」(写真を削除) (「原さんの発表」を発表文の前に追加)	編集の具体的方針(2)による。
	51	本文	修正	「声に出して楽しもう」 (歴史的仮名遣い部分は、現代仮名遣いのみで掲載)	編集の具体的方針(5)による。
	53	脚注	追加	「いろは歌」(脚注を追加) うゐの — ういの ゑひも — えひも	*歴史的仮名遣いは、学年を考慮し、現代仮名遣いのみで書き表した。
	54		削除 追加	「気になる記号」 (イラストを削除し、非常口マークとリサイクルマークの点図を追加。) (資料のように説明を付加) [資料13]	編集の具体的方針(2)による。
	55	下部	修正	(イラストを削除し、以下のように修正) 山口さんのカード(1まいめ) 6月15日(月) 見つけたマーク — アルミ缶のリサイクルマーク あった場所 — ジュースの缶の、横の部分 (1まいのえ) (点図 リサイクルマーク)	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上	56	下部	修正	(「山口さんのメモ」を資料のように修正) [資料14]	編集の具体的方針(2)による。
	57	下部	修正	(「山口さんの下書きから」の本文の波線を削除し、山口さんのセリフを以下のように修正) 「『記号一つにつき、2枚のカードに書きました。かんたんな絵もつけました。』この書き方では、カードに何を書いたのか分からないな。」	
	58	19	追加	(本文各段落末に段落番号を付加、本文前に以下の説明を追加) ☺☺☺ 各段落の最後の(1)～(6)の数字は、山口さんの文章を学ぶために後からつけたものです。	編集の具体的方針(2)による。
			修正	(「山口さんが書いた、ほうこくする文章」の後に以下の説明を挿入) 段落(1) — 調べたきっかけや理由 段落(2) — 調べ方 段落(3)～(5) — 調べてわかったこと 段落(6) — かんそう	
			修正	(丸囲み数字を「○枚目の絵(該当ページ)」と修正) (「白い四角は」を点図の表し方に合わせて「『まん中の四角い部分』は」に修正)	
	60	上1 下8	追加 修正	「符号など」(「符号など」の後に以下の文を追加) (おもに普通の文字で縦書きにする場合の例) (「横書き」の説明文を以下のように修正) 普通の文字では、縦書きと横書きがあります。横書きにする場合、左から右に書きます。	編集の具体的方針(2)による。
	61		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字2」 [資料15]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	62-63		修正 移動	「たのきゅう」(P130～P133の「たのきゅう」の文章を挿入)	編集の具体的方針(2)による。 ※文章が掲載されているが、「聞いてたのしもう」の教材である。教材の目標に沿った指導となるよう配慮してほしい。
84	下段	修正 追加	「『ありがとう』を伝えよう」 (「手紙の型」は、点字の形式にあわせ、資料のように修正・追加) [資料16]	編集の具体的方針(2)による。	
85	上段	修正	(点字の手紙の形式にあわせて本文の記載順序を入れ替え、墨字の「後づけ」部分を前付けとして配置)		
86	上4 下段	修正 追加	(「あて名の書き方」のあとに、「普通の文字で書く場合」と追加) (「はがき」「ふうしょ」のイラストを削除し、「はがきや封書の宛名の書き方」として点字の形式を挿入) [資料17]		
87		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字3」 [資料18]	編集の具体的方針(2)(3)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上	91	上段	追加	「本を使って調べよう」 (目次・さくいんページ例の前にそれぞれ「目次の例」「さくいんの例」を追加) (本文を修正) 背から探す	編集の具体的方針(2)による。
		下段			
	96		修正	「里山は、未来の風景」 (写真を削除し、写真の説明を脚注に配置)	編集の具体的方針(2)による。
	98		削除追加	(写真を省略し、「これは、ぼくがとった雑木林の写真です。」の後に(写真省略)という語句を追加)	
	104	脚注	追加	「私と小鳥とすずと」(脚注の追加) じべた — ここでは「地面」という漢字が使われている。	編集の具体的方針(2)による。
	110	上段	削除修正	「つたえよう、楽しい学校生活」 (「たいせつ」から本文に伸びる指示線を削除し、該当箇所について発言者名を示した。) 自分の考えを先に言い、次に、考えた理由を言う。 (例—山口さん) 友だちの意見と同じところ、ちがうところをはっきりさせて、意見を言う。(例—大田さん)	編集の具体的方針(2)による。
	116	上段	削除	「へんとつくり」 (イラスト及び3～5行目を削除)	編集の具体的方針(2)(3)による。 *漢字の字形 4字 *漢字の字形については ごんべんの一画目など、 明朝体やゴシック体のような 字体ではなく教科書体 に近い形であらわした。
		下段	修正	(ごんべんのつく漢字の字形を点線文字で表記) 語 詩 調 話	
		下8	削除	(「ごんべん」の字形を削除し、かな表記)	
		上段	削除	(「言」は、「ごんべん」といいます。)を削除	
	下5	削除	(へんの例について、字形を削除)		
117	下9	削除修正	(おおがいの字形は削除し、かな表記。また、「おおがい」といい、)を削除 (文を修正)「動__く」と「助__ける」のつくりは、「ちから」という字です。		
119 (4)	2	削除修正	(文を修正) 伸ばす音の前に4の点をつけて書き表します。 3の点がないと、『こにゃ』と読めてしまいます。	編集の具体的方針(2)による。	
118 (5)	吹出 3	修正修正	また、言葉をつなぐしるしとして㊦ 3 ㊦ 6の点をつけることもあります。		
	134		削除修正 「ひらがなとかたかな」 ひらがなとカタカナの五十音表の字形を掲載	編集の具体的方針(3)による。	
3下	4～5		削除 削除 削除	「三年生の学習を見わたそう」 (「 」の中に)を削除 (次の文を削除。) 四つ葉マークは、学習したら、色をぬりましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	6	下3 下5	削除 修正	「いつも気をつけよう」 (記号(。)(、)(「」)を削除) (文を修正して掲載) 「一」「を」を正しく使う。	編集の具体的方針(2)による。
	25		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字4」[資料19]	編集の具体的方針(2)(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3下	26～27		修正	「修飾語」 (四つの例文に1.～4.と番号を付加,小書きの右側の言葉は第1カッコで囲み,該当の文節の直後に掲載。下段の説明文の「これ」はそれぞれ「1.の文」「2.の文」,「次の文」は「3.の文」と修正)	編集の具体的方針(2)による。
	26	7	修正	(文の修正) そして,(何を)(だれに)の部分をつけ足すことで,文の意味が定まって,だんだんと分かりやすい文になっています。(何を)(だれに)に当たる言葉を,「修飾語」といいます。	
	27	8	修正	(文の修正) これらの「いつ」「どこで」「どこの(だれの・何の)」「どんな」に当たる言葉も,修飾語です。	
	28	下段	修正	「秋の楽しみ」 (歴史的仮名遣い部分は,現代仮名遣いのみで掲載)	編集の具体的方針(5)による。
	30			「すがたをかえる大豆」 (カタカナの「ダイズ」に第一カギを付けて漢字の「大豆」と区別した。)	
	40	上9	修正	「食べ物のひみつを教えます」 (文の修正) 調べるざいりょうを決めたら,おいしく食べるくふうや食品のれいを,メモや表にして整理しましょう。	編集の具体的方針(2)による。
41	下段 下段	修正 修正	(図を削除し,資料のように修正) [資料20] 「物事のことを図で整理する」(文の修正) 考えようとすることやものを書き,それに関連することを,棒線や矢印などを使って書いていきます。 (「表で整理する」を削除)		
42～43	上段	削除 修正	(はじめ・中・終わりの段落番号を本文の後に示した。)		
46	上段	修正	「漢字の意味」(課題文を次のように修正し掲載) 人形に「はな」をつける。 上の文を読んで,次の(1)と(2)のどちらを思い浮かべますか。 (1)飾りの「はな」 (2)顔にある「はな」 (次の文を削除) (1)人形に花をつける。 (2)人形に鼻をつける。	編集の具体的方針(2)(3)による。	
		上6	削除		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3下		下段	修正	(課題文を次のように修正) 「…」のついた言葉に当てはまる漢字を考えましょう。意味を二通り考えられましたか。 (1) 「は」がきれいだ。 (2) 「ひ」にあたる。	
	47	上段	削除 差し 替え	「次の文を読んでみましょう。」 (5行目までを削除し、以下の文章に差し替え) 次の文を読んでみましょう。 ふたえにしてくびにつけるアクセサリー ふたえに して くびに つける アクセサリー ふたえに し てくびに つける アクセサリー マスあけの位置によって、意味が変わることがあります。	編集の具体的方針(2)(3)による。
		上段	削除 修正	「次の文の☺☺☺☺には、()の中のどちらがあてはまるでしょうか。」(課題を修正し、漢字を削除。課題に関する部分を第一カギで囲んで掲載) 次の文の「…」をつけた部分は、同じ音でも違う漢字を使います。	編集の具体的方針(2)による。
	59	上段 5	削除 修正	「三年とうげ」 「この本、読もう」(世界地図を削除し、該当地域や国名を付加)	編集の具体的方針(2)による。
	60~61		削除 修正	(挿絵を削除し、文章を修正) 次の(ア)から(エ)を手がかりに、「三年とうげ」のないようをたしかめましょう。	
	61		追加 修正	(紹介文の前に「原さんのしょうかい文」を挿入) (紹介文の構成と本文との対応を紹介文の後に掲載)	
	62	下5	修正	「言葉」(文の修正) 次の文の「…」の部分を、後の()の中の言葉で言いかえると、様子はどちらがいますか。 (1) おじいさんは、「真っ青に」になりました。(青く) (2) ふとんから「はね起きました。」(起きました)	編集の具体的方針(2)による。
	63	1	修正	「たから島のぼうけん」 (文の修正) たから島の地図を手に入れました。	編集の具体的方針(2)による。
	65	4 1 上部	削除 修正 削除 修正	(「地図を見ながら」という語句を削除) (文の修正) 1. ぼうけんを、そうぞうしよう (文章の組み立てとイラストを削除し、文章の組み立ては該当段落の末に挿入)	
	67			修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字5」[資料21]
68	5	修正	「言葉を分類する」 (文の修正) 次の言葉を、分類してみましょう。	編集の具体的方針(2)による。	
70	1~3	修正	(課題文を次のように修正) 1. 次の文の☺☺☺☺には、どんな言葉が当てはまるでしょうか。後の言葉から選んで書きましょう。そして、その言葉が、(ア)動きを表す言葉		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3下	70~71	12	修正	(イ) 様子を表す言葉 (ウ) 物や事を表す言葉のどれかを考えて、(ア) から (ウ) の記号を書きましょう。 (課題文を修正) (ア) 動きを表す言葉 (イ) 様子を表す言葉 (ウ) 物や事を表す言葉を使って、文で表してみましょう。 (文の修正) 「同じことがらでも、さまざまな言葉で表すことができるね。」	
	71	上段 下段	修正 削除 修正	(イラストを削除し、次の文を付加) (1) 雪の中を歩く様子 (2) ちょうちよが飛ぶ様子	
	73	下段	修正	「冬の楽しみ」 歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いのみで掲載。 羽子板と羽根の点図を挿入	編集の具体的方針(5)による。
	87	3	修正	「しりょうからわかる、小学生のこと」 (文の修正) ここでは、小学生のことを調べてまとめたしりょうを読んで、分かったことを発表しましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	88	1	修正 修正	(文の修正) 次のしりょう(1)~(3)の中から、しりょうを一つ選びましょう。 (三つの統計資料について、参考資料のように修正し掲載) [資料2 2]	
	89	上段	修正	「ノートれい」(「グラフ」を「表」に修正した。以下同じ) (文を以下のように修正) いちばん多い年 20年(11.4さつ) ⇔いちばん少ない年 16、17年(7.7さつ) —4さつ近くもちがう	編集の具体的方針(2)による。
	90	上段	修正 修正	「発表のれい」 (赤字の小書きを第一カッコで囲み、該当箇所へ挿入) (発表の組み立てと本文との対応を修正し、「発表のれい」の後に掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	93 (1)	2 12	削除 修正 修正	「コンピュータのローマ字入力」 (   を削除し、「 \ddot{a} \ddot{m} \ddot{e} 」に修正 (文の修正) (3) のばす音は、次のように打ちます。点字の書き方やローマ字の書き表し方とはちがうので、注意しましょう。」	編集の具体的方針(2)による。
		18	削除	(文の削除) 「ぶ」(PU) のはじめての文字を重ねて打つ。	
	92 (2)	8	修正	(文の修正) たとえば、「きしゃ」をへんかんしようとするとき、「記者(新聞記者)」「帰社(会社に帰る)」「汽車(鉄道の列車)」などが出てきます。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3下		11	修正	(文の修正) のばす音があるかたかなの言葉は、ハイフンを打ち、へんかんします。	
		15	追加	(課題文上段には(カタカナ)、下段には(漢字)を付加)	
	94	2	追加	「カンジーはかせの音訓かるた」(文章の後に次の文を追加) (「・・・」のついた言葉は同じ漢字です。)	編集の具体的方針(2)による。
		下3	追加	(課題文の後に次の文を追加) (各歌の「・・・」のついた言葉は同じ漢字です。)	
	97 101	3	修正 修正	「ことわざについて調べよう」(次のように文を修正) 次のことわざを、(1)～(3)のようなくちょうごとに分けてみましょう。 (文の組み立てをほうこく書の後に掲載)	編集の具体的方針(2)による。
103			漢字の広場 2年生で習った漢字6 [資料23]	編集の具体的方針(2)(3)による。	
117	下段	削除	「モチモチの木」 (ポスターのれいの小書きを削除)	編集の具体的方針(2)による。	
4上	9	中段	修正	「ばらばら言葉を聞き取ろう」(吹き出し部分を修正して掲載) みうら「ぼくたちは、三音の動物を言います。いち、にの、さん。」	編集の具体的方針(2)による。
	10	4～5	修正	「春のうた」(2行を第1段落挿入符で囲んで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	18	11	修正	「白いぼうし」 ○の字→〇(オー)の字	編集の具体的方針(2)による。
	25	下段	修正 移動	「この本、読もう」 P128の「山ねこ、おことわり」の文章を挿入	
	26	上段	削除 修正	「漢字の組み立て」 (挿絵を削除し、文を修正して掲載) 五つの漢字、「あいだ」「わる__い」「やど」「みち」「ひろ__い」などの漢字は、それぞれ二つの部分の組み合わせで作られています。	編集の具体的方針(3)による。
	26	下段		(部首の位置は点図で、次の部首の形は点線文字で掲載。各熟語例のみ、該当する漢字に第1カギを付けて掲載) [資料24]	
	27	上段 下段		くさかんむり うかんむり たけかんむり あめかんむり むり ころろ れんが(れっか) しんにょう(しんにゅう) まだれ くにがまえ もんがまえ	
	27	下7	削除 修正	(挿絵を削除し、文を修正) くさかんむりは、主に植物に関係のある漢字を作っています。たけかんむりやれんが(れっか)、しんにょう(しんにゅう)は、それぞれ何に関係のある漢字を作っているでしょう。	
28	上段 中段	削除	「漢字辞典の使い方」(挿絵、漢字辞典「飛」の例は削除)	編集の具体的方針(2)(3)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4上	29	上13	修正	(文を修正して掲載) (れい―「もん」を部分にもつ漢字) かい(ひら__く)―部首は「もんがまえ」 ぶん(き__く)―部首は「みみ」	
		下段 5	修正	(文を修正し、以下の漢字は読みに加えて、点図も掲載) 区 池 子 近 画を数えるときに、「く」の4画目のような「おれ」や「いけ」の6画目のような「曲がり」は、1画と数えます。 「く」 「いけ」 区 池 4かくめ 6かくめ (区 4画目を太線 その下に4画目と記載) (池 6画目を太線 その下に6画目と記載) また、「こ」の1画目と2画目のように一続きに見えても、2画と数えるものがあります。「ちか__い」の6画目と7画目は一続きに見えても、6画目、7画目と数えます。 「こ」 「ちか__い」 子 近 1・2かくめ 6・7かくめ (子 1,2画目を太線 その下に1・2画目と記載) (近 6,7画目を太線 その下に6・7画目と記載)	編集の具体的方針(2)(3)による。 *漢字の字形 4字
	30～31		削除	「音訓さくいん」「部首さくいん」「総画さくいん」(索引例はすべて削除)	
	31	下1	修正	(課題文を次のように修正) 1. 次の「 」で示した部分は、それぞれあとの()に示した画数の漢字です。漢字辞典などを使って漢字の意味と使い方を調べてみましょう。 (1)「しゃ」真家(5画) (2)作「きょく」(6画) (3)「はつ」音(9画) (4)「き」立(10画) (5)太「よう」(12画) (6)「ゆう」園地(12画)	
		下4	修正	2. 漢字辞典などを使って、「 」の中の漢字の読み方、意味、使い方を調べましょう。 (棒線部の漢字は、第1カギで囲む。「キュリー夫人」はふたえカギで囲む。)	
	32	上段	削除	「きせつの言葉1 春の風景」 (写真・挿絵は削除)	編集の具体的方針(2)(5)による。
	32～33		修正	歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いで掲載	
	35		削除 修正	「よりよい話し合いをしよう」 (挿絵を削除し、板書の内容は脚付実線枠で囲み、13行目の後に掲載。)	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4上	38～39		削除 修正	「話す言葉は同じでも」 (挿絵は削除し、課題文には挿絵の状況説明を付記。 会話文には、挿絵の説明となる内容をト書きにして挿入) [資料25]	編集の具体的方針(2)による。
	42～50		削除	「動いて、考えて、また動く」 (写真、挿絵、本文中の「図1・図2・図3・図4」は削除)	
	51			「漢字の広場 3年生で習った漢字1」 [資料26]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	55	2	削除 追加	「新聞を作ろう」(挿絵は削除) (①新聞の特徴をたしかめよう。の後に以下の文を追加) 普通文字の新聞には、次のような特徴があります。	編集の具体的方針(2)による。
	59	上13	削除	13, 14行を削除 「・文字数を計算しやすいように、ます目のノートやげんこう用紙を使うとよい。」を削除	
	65	下段	削除 修正	「いろいろな意味をもつ言葉」 3. 次の「ひく」「かける」を使って、「とる」という詩にならった言葉遊びの詩を作りましょう。 (挿絵を削除し、文章化して掲載) (1)「ひく」 かぜを「ひく」 ピアノを「ひく」 つなを「ひく」 (2)かける めがねを「かける」 洋服を「かける」 でんわを「かける」	編集の具体的方針(2)による。
	66		削除 修正	「聞いて楽しもう ふるやのもり」 (挿絵を削除して、P133の本文を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	82～83		修正	「夏の風景」 (俳句のカードを脚付実線で囲む) (歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いで掲載)	編集の具体的方針(5)による。
	86～87	中段 上段	修正 修正	「自分の考えを伝えるには」 (「青木さんが書いた文章」を脚付点線枠で囲み、その後以下に以下の文を記載。文章中の朱線・波線部は、第3指示符で囲む。「小林さんが書いた文章」も同様の処理。)	編集の具体的方針(2)による。
	87	8	修正	(「＝線と~~~~線を引いた部分」を以下のように修正) 第3指示符をつけた部分	
89			「漢字の広場 3年生で習った漢字2」 [資料27]	編集の具体的方針(2)(3)による。	
91～92		削除 修正	「『読むこと』について考えよう」 (挿絵を削除して、文章による説明を入れる。) 帰り道で私は掲示板を読む。	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4上	92		修正追加削除	<p>僕は図書館で本を読む。 私は教室で教科書を読む。 お母さんがスーパーのチラシを読む。 おじいさんが回覧板を読む。 僕は漫画を読む。 朝、お父さんが新聞を読む。 私は手紙を読む。</p> <p>(朱線部を第3指示符で囲み、吹き出しを資料のように修正) [資料28] 3「かげ」を読もう。(挿絵は削除)</p>	
	99	下段	削除修正	<p>(「作品の内容に関わる絵」を削除) (しょうかい文の前に説明の部分を資料のように掲載) [資料29]</p>	編集の具体的方針(2)による。
	106	下段	削除修正	<p>「カンジーはかせの漢字しりとり」(挿絵は削除) (題文を修正し、解答を入れて掲載) [資料30] (「漢字辞典を活用しましょう」を「漢字辞典などを活用しましょう」に修正)</p>	編集の具体的方針(2)(3)による。
	108		削除	<p>「だれもが関わり合えるように」(写真を削除) (点字のあいうえおの削除)</p>	編集の具体的方針(2)による。
	117	上段	修正	<p>「目の不自由な人の役に立つ工夫」の分類例=記録したカードを、「場所」で分類したもの 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 家の中 シャンプー・リンス 電話、テレビのリモコン「5」のボタンの上の出っぱり。 せんたく機、ラップ、お札 (商品 少ない。一人一人のことだから?) 公共の建物 駅 — ホームのブロック 図書館 — 案内地図 市役所 — 音声ガイド、手すり (多くの人が使う) 道路・外 歩道の点字ブロック 信号の音声ガイド 案内板、ポストのさし入れ口 (多くの人が使う、命に関わる) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	
	118		修正	<p>(初め・中・終わりについての説明は3行目の後に掲載) (発表の時工夫することは、文中の朱線部の前後に挿入。初め・中・終わりの段落をメモの後に記載。) (はじめ) — 第1段落 (なか) — 第2段落～ (終わり) — 最後の段落</p>	
	120		修正	<p>「漢字の広場 3年生で習った漢字 3」 [資料31]</p>	編集の具体的方針(2)(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4下	47	2	修正	「上の写真は、みんなで手をつないで、風車のように回っているところです。」→「たとえば、みんなで手をつないで、風車のように回る動きがあります。」	
	46	下13	削除	(「▼写真の使い方で工夫しているところはありませんか。」を削除)	
	47	13 14 下	修正 削除 削除 修正	(「表紙やうら表紙には」→「表紙や最後のページには」に修正。(表紙)は削除。(うら表紙)→「最後のページ」に修正) (「たいせつ」の中の、「内容に合う写真をそえたり」を削除。「具体例をあげたり」を「具体例をあげると」に修正)	
	48～49		修正	「短歌・俳句に親しもう(二)」 歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いで掲載	編集の具体的方針(5)による。
	63		修正	「漢字の広場 3年生で習った漢字 4」 [資料32]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	70～71		削除 追加	「のはらうた」(挿絵を削除して詩の区切りに仕切り線を入れる)	編集の具体的方針(2)による。
	74	4	修正	「冬の風景」(手紙は、点字の手紙の様式で書く) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 おじいちゃんへ 1月19日 水田洋子 朝起きたら、水たまりに・・・。 「・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	81		削除 修正	「うなぎのなぞを追って」 (写真・表・挿絵は削除し、図の1・3は略図にして掲載) (本文中、図2、図4は削除。文中、表題の図3→図2に修正)	編集の具体的方針(2)による。
		下段	修正	(しょうかい文のあとに段落を掲載) (「研究に長い時間がかかるところ」を中心にしたしょうかい文の例) 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 「ウナギのなぞを追って」は、ウナギがたまごを産む場所を明らかにするために、・・・おぼえました。 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 なんの話か—第1、第2段落 要約—第3段落 感想—最後の段落	
	87		修正 追加	「漢字の広場 3年生で習った漢字 5」 [資料33]	編集の具体的方針(2)(3)による。
89		修正 追加	「聞き取りメモの工夫」 (放送委員会の説明を脚付棒線で囲む。「5年生の説明」を加える。)	編集の具体的方針(2)による。	
90	上	修正	(宮下の吹き出しを以下のように修正) 「簡単に書いた。集会の用意のところに『マイク』って書いておかないと。」		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4下		下	修正 修正	(宮下・森田のメモは資料のように修正) [資料34] (脚注の「かじょう書き」を以下のように修正) ・・・ならべる書き方。(1)(2)「・・・」などの記号や数字を用いるとわかりやすい。	
	91		修正	「たいせつ」 (以下のように修正) 「聞き取れなかったことなどは、後でしつもんできるように、印をつけておく。」	
	92	上段 下11	削除 追加 追加	「熟語の意味」(挿絵は削除) (ありは「あり1」「あり2」「あり3」と付記) 1(訓読みを記載) 木刀(き,かたな) 戸外(と,そと) 流星(ながれる,ほし) 竹林(たけ,はやし) 多数(おおい,かず) 温水(あたたかい,みず) 深海(ふかい,うみ) 伝言(つたえる,いう)	編集の具体的方針(2)による。
	93	下9	追加	2 漢字の組み合わせを手がかりにして (訓読みを記載) 明暗(あかるい,くらい) 白紙(しろい,かみ) 岩石(いわ,いし) 消火(けす,ひ) 着陸(つく,りく) 軽重(かるい,おもい) 取得(とる,える) 右折(みぎ,おれる)	
	100	中段 下8	削除 修正	(ほうこく書の下の「題名・初めに・分かったこと・終わりに・使った本」は削除) (下段の説明は、ほうこく書の後に記載。8～9行目の「二字分下げて書いたり」を「行をかえたり」に修正)	
102	上段 下1 下2 下5 下12 下6	削除 修正 修正 修正 修正 修正	「まちがえやすい漢字」(挿絵と吹き出しを削除。上段の文章を削除。) (「平がな」を「点字」に修正。) (「平がな」を「点字」に修正。) (正しい漢字を使いましょう。を 正しい漢字を選びましょう。に修正) (課題文を修正し、訓読みの語には音読みを付記) 1. 次の文で「 」で示した部分の意味を考えましょう。また、自分でも文を作りましょう。 (1) 「はや」くきずがなおってよかった。音は「そう」 足が「はや」くて、追いつけない。音は「そく」	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正 事項	修 正 内 容	備 考
4下				(2) 「かんしん」な行いだ。 手芸に「かんしん」をもつ。 (3) 水泳「いがい」の運動は好きだ。 水の量が、「いがい」に多かった。	
	103	上4 下 2~4 下5 下7 下9	修正 削除 削除 修正	(4~6行目を以下のように修正) これまでに習った漢字でも、言葉になじみがない と、意味が分からないことがあります。 「知っている～しまうことがあります。」を削除 「付録を使って音訓をたしかめましょう。」を削除 (例) 「うち」の中(いえ) 「やめる」(とめる) (「読んだり書いたりする」を「ワープロソフトを使 って普通の文章を書く」に修正)	
	120	下		「初雪のふる日」 (読み方の工夫のメモは脚付実線で囲む。朱線部は番 号をつけて、第3指示符で囲む。下段にある朱線部の 説明については、メモの後に掲載)	編集の具体的方針(2) による。
	123			「漢字の広場 3年生で習った漢字 6」 [資料35]	編集の具体的方針(2) (3)による
	132		修正	「百人一首に親しもう」 歴史的仮名遣いは現代仮名遣いで掲載	編集の具体的方針(5) による
	5年	13	4	修正	「ふるさと」 現代仮名遣いで書き表す。
14		下段	修正	「あめ玉」(欄外事項の掲載位置) (考えてみよう) 1. ~3. P14L8の後 (考えてみよう) P15L14の後 (読んでみよう) 1. ~2. P17L14の後 (考えてみよう) P18L11の後	編集の具体的方針(2) による。
19		上段	修正	聞いている人の顔を→聞いている人のほうを	編集の具体的方針(2) による。
19		下段	修正	漢字での書き表し方→書き表し方 音や訓の読み方→音や訓	編集の具体的方針(2) による。
33			修正	漢字の広場 4年生で習った漢字1 [資料36]	編集の具体的方針(2) (3)による。
34		7,8	修正	季節の言葉1 「枕草子」は現代仮名遣い(カッコ内の表記)で書き 表す。(季節の言葉2~4も同様にする。)	編集の具体的方針(3) (5)による。
36,37			削除 追加	新聞記事の写真を削除。 8行目の本文の後に「一面の記事は、次のように構成 されています。」という文を追加し、各項目をナンバ リングして記す。	編集の具体的方針(2) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5年	37	下段		新聞を読もう 点図で逆三角形	編集の具体的方針(2)による。
	38, 39		修正	3 二つの記事を比べよう。 [資料37]	
	40	2, 3	修正	3 興味を持った記事を見つけよう 見出しや写真に→見出しなどに 選び, 切り抜きます→選びます	編集の具体的方針(2)による。
	42	1-5	削除	次の文字は, ある漢字の昔の形です。それぞれの形をもとに今の漢字を考え, 下の□に書きましょう。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	42-43		修正	漢字の成り立ち [資料38]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	43	上9	修正	1 次の「 」で示した漢字は, 4. に当たるものです。漢字の意味を確かめましょう。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	43	10	修正	2 次の「 」で示した漢字の成り立ちを, 辞典を使って調べましょう。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	45	2	修正	写真A→図1 (点図)	編集の具体的方針(2)による。
	45	7	修正	写真B→図2 (点図)	
	52	上段	修正	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 構成-初め 段落(1) 書いてあること-多様な生き物の, 形の上での共通性は, 円柱形だということだ。 大事な語や文-多様 共通 生き物は円柱形だ 構成-中(前半) 段落(2) 書いてあること-人間の体の部分や全体を, 円柱形だと見ることできる。 大事な語や文-円柱形と見なす ・・・ 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。よる。
	52	下5	修正	点字32マス9行(150字)以内	編集の具体的方針(6)による。
	55		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字2 [資料39]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	58-62		削除 修正	古典の世界(一) 絵とキャプションは削除。 現代かな遣い, 古文, 訳 の順に掲載。	編集の具体的方針(5)による。
64	段	修正	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 「中川さん」 →水泳が大好き→泳ぐ楽しさ→楽しさを感じる時, 水泳とは, 好きになったきっかけ →水泳が大好き→いつから, 練習量 →ネコを飼っている →図書委員 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。 *マッピング形式の図であるが, 児童が実際の学習で筆記できる形式に修正した。	
68	上	修正	(友だちに)「少し待ってね。」 (お客さんに)「少しお待ちください。」	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5年	69	上5 上7 下5	修正	「お(ご)ーになる」→「お…になる」「ご…になる」 「ーれる(られる)」→「…れる」「…られる」 「お(ご)ーする」→「お…する」「ご…する」	編集の具体的方針(2)による。
	71		修正	(1)本のポスターー広告や宣伝のための文章を書いたり、絵や写真を使ったりして、本を紹介しているはり紙のこと。 (ポスターの例) 「 人気シリーズの最新作！！ 松本あかり 「ひまわりがさいたら」 」 (2)ポップ(広告カード)ー本の近くに添えられている広告のこと。・・・ (ポップの例) 「 夏休みに読もう _____ 店長のおすすめです _____ 読んでおきたい名作 _____ 夏休みに作ってみよう 」 (3)本の帯ー本の表紙に巻いてある、・・・ (本の帯の例ー「バーナムの骨」) 「 これ、なんの骨？ 化石ハンター、バーナム ブラウンを描いた ノンフィクション絵本 」	編集の具体的方針(2)による。
	76	12	修正	写真の、古代の釘を見てほしい。→ 「ここに、古代の釘の写真がある。」に修正	編集の具体的方針(2)による。
	82		修正	「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 「千年の釘にいどむ」 →仕事 →生き方 →伝統文化 →ものづくり 「1本の鉛筆のむこうに」 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	85		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字3 [資料40]	編集の具体的方針(2)(3)による。
96-97		修正	●→○の伏せ字 (☺☹) ▲→△の伏せ字 (☰☱) ■→□の伏せ字 (☳☴)	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5年	96	下9	修正	(3) 漢字が分からないときは、国語辞典で調べよう。	編集の具体的方針(2)による。
	99	上6	修正	ふつうは、促音(っ)や、長音(ー)、撥音(ん)も、1音と数えます。	編集の具体的方針(2)による。
	100		修正	俳句は現代仮名遣いで書き表す。	編集の具体的方針(5)による。
	100	13	修正	「普通の文字では」を加える。	編集の具体的方針(2)による。
	101	下7	修正	漢字、平仮名、片仮名のどれを使って→どのように	編集の具体的方針(2)による。
	102	下9 11	修正 修正	「自然カガク」の「カガク」のように漢語は、ふつう漢字で書き表しますが、平仮名で書いてあっても、…	編集の具体的方針(2)による。
	103		修正	同じ漢字を使います。ただし、漢語と和語で…	
	112	上6	修正	1. ~ 4. の各文の「 」で示した部分はそれぞれ同じ漢字です。このように、漢字には複数の音を持つものがあります。	編集の具体的方針(3)による。
		下1	修正	1 次の(1)~(4)の「 」のついた部分もそれぞれ同じ漢字です。 (1) 本「名」 「名」案 「名」人 大「名」 (2) 「日」時 連「日」 休「日」 来「日」 (3) 「正」面 公「正」 「正」式 「正」月 (4) 「言」語 発「言」 無「言」 伝「言」	編集の具体的方針(2)(3)による。
		上2	修正	「漢数字の7」に「たな」、夕方の「ゆう」に「ばた」という読みはありません。それなのに、「漢数字の7」と夕方の「ゆう」を書いて「たなばた」と読むのはなぜでしょう。 古く、中国語では七月七日の夜のことを「しちせき」(漢数字の7, 夕方の夕)と表していました。日本語の「たなばた」にこの漢字二字を当てたところから、特別な読み方が生まれたのです。	編集の具体的方針(2)による。
	114	注	修正	「ガンがり」を脚注扱いとする。	編集の具体的方針(2)による。
	132	上段	修正	(ノート例) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 場面1 (残雪の様子や行動—大造じいさんの心情) 仲間がえさをあさっている間も、油断なく気を配っている。—りこうなやつ いまいましい つりばりを飲みこまないように仲間を指導した。—感嘆 たいしたちえをもっているものだなあ。 L・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	135		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字4 [資料41]	編集の具体的方針(3)による。
	138		削除	写真・天気予想図・キャプションを削除	編集の具体的方針(2)による。
138	3	修正	上の表→表1 (P139L5の後に表1を挿入)	編集の具体的方針(2)による。	
142	6	修正	上のグラフ→表2 (P143L1の後に表2を挿入)		

学年	ページ	行	修正 事項	修 正 内 容	備 考
5年	158		削除	絵・写真・キャプションは削除	編集の具体的方針(2)による。
	169	下1	修正	点字32マス11行(200字)	編集の具体的方針(6)による。
	170		修正	「古典の世界(二)」 現代仮名遣いで表記し、脚注で歴史的仮名遣いを示す。	編集の具体的方針(5)による。
	176			詩は現代仮名遣いで書き表す。	編集の具体的方針(2)による。
	178		修正	「想像力のスイッチを入れよう」 図①～図③を点図で掲載 図① P179L8「いっぽう」の前に挿入 図② P179L9「しかし」の前に挿入 図③ P179L12段落末に挿入	編集の具体的方針(2)による。
	187		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字5 [資料46]	編集の具体的方針(3)による。
	188		修正 移動	「見るなのざしき」P260-264を挿入。P260の 「他にどのような楽しみ方があるでしょう。 (例)自分で読んでみる。読み方を工夫して、だれかに読み聞かせる。話の大体を覚えて、だれかに語り聞かせる。」をP189末に挿入。	編集の具体的方針(2)による。
	191	上段	修正	野口「何か体験できるような内容だといいな。『学習会は、地域のことを知るのも目的です。』と先生に言われたな。きょうど料理を研究している関さんはどうかな。」	編集の具体的方針(2)による。
	192	下段	修正	(写真1)(写真2)という言葉は削除。	編集の具体的方針(2)による。
	223		修正	方言分布図 [資料47] 方言分布図を点図。	編集の具体的方針(2)による。
	224	3	修正	一枚の写真から、物語を想像することができます。あなただけの物語を書き、クラスの短編集を作りましょう。・・・	編集の具体的方針(2)による。
	225		修正	[資料48]	編集の具体的方針(2)による。
	226		修正	[資料49]	編集の具体的方針(2)による。
	227	6	削除	「選んだ写真を見ながら」→削除	編集の具体的方針(2)による。
	229		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字6 [資料50]	編集の具体的方針(2)(3)による。
233	上9	修正	漢字、平仮名、片仮名のどれを使って→どのように	編集の具体的方針(2)による。	
250		削除	「ニュース作りの現場から」 写真とキャプションは削除	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5年	256		修正 削除	「通信文のいろいろ」 [資料5 1] (ファクシミリ通信文) (電子メール) の(例)の 前に、それぞれ「次のことに注意します」として、ペ ージ内左に記載の事項を入れる。 △及び*の部分は削除(電話番号, ファクシミリ番 号, 電子メールアドレスと書く。)	編集の具体的方針(2) による。
	258		修正	「古典に親しもう」 「古典の世界(一)」と同様に表記。	編集の具体的方針(5) による。
	267	7	修正	ふつう, 片仮名で書く→普通の文字では, 片仮名で書 かれている	編集の具体的方針(2) による。
	267	10	削除 修正	(下段参照) →削除。 「次のような言葉は, 特別な読み方をする。」	編集の具体的方針(2) による。
6年	10	下部	削除 修正	「つないで, つないで, 一つのお話」(挿絵を削除 し, 挿絵内セリフのみ, 本文後に挿入)	編集の具体的方針(2)に よる。
	31		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字1」 [資料5 2]	編集の具体的方針(2) (3)による。
	33	左端	削除 修正	「春のいぶき」(写真は削除し, 字数の指定箇所に点 字のマス数を付記) 点字32マス11行(200字)くらい	編集の具体的方針(6)に よる。
	35	欄外	修正	「笑うから楽しい」(欄外事項の掲載位置の修正) P35の▼は, 1. ~3. として, 文末に掲載。	編集の具体的方針(2)に よる。
	38	下部	修正	「時計の時間と心の時間」 (実験①のグラフを表にする) [資料5 3]	編集の具体的方針(2)に よる。
	38	10	修正	(「実験①のグラフは」を「実験(1)の表は」に修 正)	編集の具体的方針(2)に よる。
	39	下部	修正 削除	(実験②の画面は点図で表した)	編集の具体的方針(2)に よる。
	42	6	修正	(字数の指定箇所に点字のマス数を付記) 点字32マス3行(50字)程度で書こう。	編集の具体的方針(6)に よる。
	47		修正 削除	「学級討論会をしよう」(発言者を肯定グループ・否 定グループ・討論を聞くグループとし, 「相談時間」 内の記号は削除, または助詞に修正)	編集の具体的方針(2)に よる。
	49	上段	修正	(「討論を聞くグループ」の中村さんのメモを資料の ように修正) [資料5 4]	編集の具体的方針(2)に よる。
	50	下段	削除 修正	「伝えにくいことを伝える」(絵を削除し, 吹き出し を「」で囲み, 箇条書きに修正)	編集の具体的方針(2)に よる。
	52-53		修正	「漢字の形と音・意味」(以下の漢字を点線文字で示 し, 課題文を修正して掲載) [資料5 5] 求 球 救 化 貨 花 静 清 晴 青 則 側 測 彳 徒 往 復 待 後 従 月 脳 臓 肺 胃 腸 ㇿ ㇿ ㇿ	編集の具体的方針(2) (3)による。
	54-55		削除 修正	「私と本」(挿絵を削除し, 囲み枠内の文に番号を付 して, 右上から掲載)	編集の具体的方針(2)に よる。
	56		削除	(「(6)どんな本が好きかな」の「写真や絵がきれい な本」を削除)	編集の具体的方針(2)に よる。
	70-71		修正	「記述例」(記述例の下の説明に番号を付し, 記述例 の後ろに挿入)	編集の具体的方針(2)に よる。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6年				<p>(記述例)</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>私の一冊「森へ」</p> <p style="text-align: right;">村上 千絵</p> <p>これまでに読んだ本の中で、いちばん… (中略)一冊なのである。</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>(1) 選んだ本を、文章の初めにはっきり書く。(第1段落)</p> <p>(2) 本の内容を簡単に説明する。(第2段落)</p> <p>(3) 印象の深い部分を引用してもよい。(該当ページ行)</p> <p>(4) なぜ、心に残っているか、その理由が伝わるように書く。(第3～5段落)</p>	
	73		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字2」 [資料56]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	74-75		修正	「河鹿の屏風」(P256～P259の文章を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	80	下部	修正	「ようこそ、私たちの町へ」(「取り上げる題材について書き出した例」を資料のように修正し、P80L7の後へ挿入) [資料57]	編集の具体的方針(2)による。
	81		削除修正	(「構成を考えよう」は、挿絵を削除し、資料のように修正) [資料58]	編集の具体的方針(2)による。
	82		削除修正	(「記述例」の平面図は削除、下部の吹き出しは該当ページと行を挿入して掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	86-87		修正	「熟語の成り立ち」 [資料59]	編集の具体的方針(2)による。
	89	3	修正	「たのしみは」(短歌は現代仮名遣いで表記)	編集の具体的方針(2)による。
	89	9	修正	(「2. 短歌を作ろう」の文の修正) …の31音で表しましょう。促音(ㇿ)や、長音(ㇿㇿ)、はつ音(ㇿㇿ)も、1音と数えます。	編集の具体的方針(2)による。
	89	左端	削除	(空欄付の短冊は削除)	編集の具体的方針(2)による。
	90	上段	修正	(「4. 短冊に書いて、読み合おう。」の文の修正) 4. 短冊にはって、読み合おう。 作った短歌を書いて短冊にはり、読み合ひましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	91		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字3」 [資料60]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	95	上段	修正	「未来がよりよくあるために」 (話し合いの様子を発言者名を入れて修正)	編集の具体的方針(2)による。
	98-99		修正	「4. 意見文を書こう。」 (意見文の上の見出しは、(1)～(4)とし、段落番号を追加して作文の前に挿入。意見文の下の▼は、(1)～(3)とし、意見文の後に挿入。)	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正 事項	修 正 内 容	備 考
6年	105		正	「漢字の広場 5年生で習った漢字4」 [資料6 1]	編集の具体的方針(2) (3)による。
	106	段 1-2	修正	「生活の中の言葉」(文の修正) 1. 次の文で敬語が使われているところはどこでしょう。	編集の具体的方針(2)による。
	119-		削除 修正	「イーハトーヴの夢」(写真は削除。写真の説明文を修正し、本文末に掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	121	7	追加	「イーハトーヴの夢」(曲尺の意味を脚注で追加) 曲尺 — 「かね」は「きょく」(ま__がる)という漢字で表す。	編集の具体的方針(2)による。
	130	7	修正	(「自分の感じたことを、朗読で表現しよう」の文の修正) 本文から谷川の様子が見えるところを見つけよう。	編集の具体的方針(2)による。
	131	4	修正	心を引かれる言葉や表現を抜き出し、その情景を想像しよう。	編集の具体的方針(2)による。
	131	下段	修正	(「朗読のしかたの例」の朗読のしかたについての文に番号を付し、本文の後に挿入) (朗読のしかたの例) 「クラムボンはやんだよ。」 中略 にわかにはっきりと明るくなり、日光の黄金は、夢のように水の中に降ってきました。 1. 暗い場面から明るい場面へ変化する様子が分かるように。 2. 「クラムボンはやんだよ」から「それなら、なぜ殺された」までは、不気味な感じが伝わるように、低い声でゆっくり読む。 3. 「分からない」は、心細そうに、小さな声で。 4. 「クラムボンはやったよ」から、明るいイメージが変わる。喜んでいる感じの声で。	編集の具体的方針(2)による。
	135	段	修正	「秋の深まり」(俳句を現代仮名遣いで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	137	14	削除 修正	「『鳥獣戯画』を読む」(写真を削除し、文章を修正) ためしにぱっとページをめくってみる。 どうだい、蛙が兎を投げ飛ばしたように動いて見える。	編集の具体的方針(2)による。 ※絵画や絵巻などを「見て」文章と照らし合わせながら考える教材である。
	143		削除 修正	(「『鳥獣戯画』と同じ時代に生まれた絵巻物」の写真は削除し、「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵巻」の説明のみを掲載)	視覚経験のない(または少ない)児童にとって、文章のみで本教材の目標を達成することは難しい部分が多い。指導に当たっては、児童の実態を踏まえた適切な工夫をされたい。
144	2	修正	「筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう」(文の修正) あなたが絵の説明を読んで感じることで、		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6年	144	上段 5-7	修正	筆者は、「絵」と「絵巻物」の二つのことについて書いている。「絵」について書いてあることを読もう。	
	144	上12	修正	筆者の評価が表れている表現を抜き出そう。	
	145	上段 7-9	修正	つながっている絵を、わけて出したのはなぜだろう。また、再度出しているのはなぜだろう。	
	145	5	修正	(字数の指定箇所点字のマス数を付記) 点字3 2マス1 1行(200字)程度	編集の具体的方針(6)による。
	148		削除 修正	P148 「この絵、私はこう見る」(絵を削除して、文章を修正) [資料6 2]	編集の具体的方針(2)による。
	149	上段 1-7	修正	「この絵、私はこう見る」(文章を修正) 2. 何を、どの順序で書くか決める。 読み取ったことや感じたことを整理し、何を、どの順序で書くか決めます。 3. 表現を工夫して、文章に表す。 自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫して書きます。読み手に注目してほしいところは、特にくわしく書きます。	※絵画を「見て」文章と照らし合わせながら考える教材である。視覚経験のない(または少ない)児童にとって、文章のみで本教材の目標を達成することは難しい部分が多い。指導に当たっては、児童の実態を踏まえた適切な工夫をされたい。
	150	1	修正	(文の修正) 4. 書いた文章を読み合う。	
	150	下段	修正	(ふりかえろう・いかそう) 1. 読み取ったことや感じたことを、どのように表現を工夫して書きましたか。 2. 図画工作で、ちょうこくなどを鑑賞し、感じたことを書くときに生かしましょう。	
	151- 152		修正	「漢字を正しく使えるように」(漢字は区別のために音または訓を追加) [資料6 3]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	154- 156	外	削除	「伝えられてきたもの」(写真及び欄外の年表は削除)	編集の具体的方針(2)による。
	158- 165		修正	「柿山伏」(現代語訳等は欄外注として掲載。ト書き、情景描写は前後2マスあけて第1カッコで表記。現代語訳などはページごとに脚注として処理) 例(P158上4) 山伏 貝をも持たぬ山伏が、貝をも持たぬ山伏が、道々うそをふこうよ。(と歌う。)これは出羽の羽黒山よりいでたる、かけ出の山伏です。… ———注——— かけ出の — 山で修行を終えたばかりの	編集の具体的方針(2)による。
	168- 169	1	削除 修正	「日本で使う文字」(挿絵を削除し、文章を修正。万葉仮名の例は削除) 漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字など、私たちの身の回りでは、さまざまな文字が使われています。	編集の具体的方針(2)による。
	170	外	削除 修正	(平仮名と片仮名の表を削除。「ゐ・ゑ」についての文は修正し、P169の上段最後に挿入) また、古代には、ア行の「い」「え」と、ワ行の「ゐ」「ゑ」の発音が区別されていたため、それに対応する仮名がありました。	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6年	171		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字5」 [資料64]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	176-177		修正	「天地の文」(現代仮名遣いで表し、歴史的仮名遣いは脚注に掲載)	編集の具体的方針(5)による。
	181	下部	削除修正	「自然に学ぶくらし」(写真はすべて削除。写真の説明は、シロアリの巣についてのもののみ脚注へ挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	187	8	修正	(字数の指定箇所点字のマス数を付記) 32マス6行(100字)程度	編集の具体的方針(6)による
	189		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字6」 [資料65]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	194-195		修正	「随筆を書こう」(「明日の私は新しい」は点線枠で囲み、①～③は段落番号を追加して、点線枠の後に挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	196-197		修正	「カンジー博士の山登り」[資料66]	編集の具体的方針(2)(3)による。
	199	下段	修正	「春を待つ冬」(俳句を現代仮名遣いで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	200		削除追加	「海の命」(図版を削除し、P204のイサキとブリにそれぞれ体長を追加) イサキ — …。体長40センチメートルぐらい。 ブリ — …。体長1メートルぐらい。	編集の具体的方針(2)による。
	217	下段	修正	「今、私は、ぼくは」 (資料①～③は、ぶら下がり点線枠で囲んで、「倉田さんのメモ」の後に掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	218	下段	修正	「倉田さんのスピーチ」(話し方の工夫についての添え書きは、矢印部分に前置。	編集の具体的方針(2)による。
	220-221			「中学校へつなげよう」(各項目に番号を付して掲載)[資料67]	編集の具体的方針(2)による。
	231	5	修正	「かなえられた願い」(本文の英語表記を脚注とし、本文にはカナで掲載) 「ザ テイル オブ ゲンジ(源氏物語)」	編集の具体的方針(2)による。
	249	下段	削除修正	「宇宙飛行士」(「小学1年生のときに書いた作文」の絵は削除し、文章のみ掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	253	14	修正	「宇宙飛行士」(字数制限を点字のマス数指示に修正) 1. この文章を読んだ感想を、点字32マス22行(400字)程度にまとめよう。	編集の具体的方針(6)による。
	254	下段	修正	「心にひびく手紙」(梶井基次郎の手紙は、現代仮名遣いで表記)	編集の具体的方針(5)による。
	256	1	修正	「河鹿の屏風」(本文の前にある文を修正し、本文末へ挿入)	編集の具体的方針(2)による。
256-259		修正	注は文中注記符を付さずに、脚注とする。	編集の具体的方針(2)による。	
260-261		修正	「考えを助ける図表」(各図表を修正) [資料68]	編集の具体的方針(2)による。	

3 参考資料

資料1 1-1 点字導入教材 片面書き P1～35までは、行間やや広めの9mm

ページ	内 容	指導上の留意点
1	両手で正しくたどりましょう(1) ⠠の線4行 ⠡の線4行	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期には、平らで適度な堅さの面に置かれた点字用紙で学ぶことが望ましい。必要に応じて同様の教材のシートを用意し、指導する。 ・両手指で行の終わりまで正しくたどる。 ・両手指で行の終わりから戻り、行替える。 ・両手指で行をたどり、行の中程を過ぎたら右手だけで残りをたどる。左手は先に改行し、右手が追従する。 ・両手の指先は立てずに行の上に置き、両手の人差し指を軽く接触させてたどる。指先の腹でたどるが、押さえすぎないように注意する。 ・両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。
2	両手で正しくたどりましょう(2) ⠠の線4行 ⠡の線4行	
3	両手で左から右までたどりましょう(1) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠の形で2行2組, 3行1組	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を立てずに指先の腹で正しくたどる。 ・基点に両手指を正しく置き、終点までたどり、両手指で戻る。 ・基点に両手を置き、右手だけで終点間を往復する。さらに終点に両手を置き、基点間を左手だけで往復する。
4	両手で左から右までたどりましょう(2) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠の形で6行	
5	長さを比べましょう ⠠の線2行1組(16マス, 20マス) ⠡の線2行2組(24マス, 20マス)(14マス, 18マス) ⠢の線2行1組(16マス, 12マス)	<ul style="list-style-type: none"> ・指先を立てずに指先の腹で正しくたどる。 ・左手を基点にして、右手の動きで基点からの長さを捉える。 ・行末のへこんだ部分を捉える。
6	始まりがへこんだところを探しましょう(1) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠の形で3行2組 2行目と4行目は、2マス下げた書き出し	教科書に移行したときに不可欠な、書き出し(段落)意識のレディネス教材 <ul style="list-style-type: none"> ・改行動作の習得
7	始まりがへこんだところを探しましょう(2) ⠠の線10行 2, 5, 7, 9行目は、2マス下げた書き出し	
8	始まりがへこんだところを数えましょう ⠠の線5行1組と6行1組 2, 4行目と2, 4, 5行目は、2マス下げた書き出し	
9	一マスあけの切れ目を探しましょう ⠠の線2行4組 マスあけは3回と4回, 2回と5回, 6回と6回	一マスあけイメージの形成と行たどり教材 (一マスあけは6箇所までとする。行末は数えるべきかどうか判断が分かれるので、この教材には入れない。)
10	一マスあけの切れ目を探しましょう ⠠の線4行2組 マスあけは3, 4, 5, 5回と3, 6, 4, 5回	

ページ	内 容	指導上の留意点
20	左と右のどちらでしょう(1) ●●で囲んで●と● 4行 ●●の後に続けて●と● 3行	一マスの縦行(①③と④⑥の点)の意識化教材 ・難易度への配慮から、最初は●●で囲み、次に●●の後に続けて示す。
21	左と右のどちらでしょう(2) ●●で囲んで●と● 4行 ●●の後に続けて●と● 3行	一マスの縦行(①②③と④⑤⑥の点)の意識化教材 ・●と●は●●の後に続けると干渉が起きやすいので、●と●を学んでから行う。
22	長い棒と短い棒のどちらでしょう ●と● 3行 同じ形を探しましょう ●と●, ●と● 2行ずつ	縦行の●の点間の意識化教材 ・●と●, ●と●, ●と●の区別を学ぶ ・●と●, ●と●は、友だちと速さを競ったり、時間を計測したりして、興味喚起を意図した教材
23	違うものを探しましょう(1) ●●で囲んで●と● ●●で囲んで●と● ●●で囲んで●と● 2行ずつ	一マスの縦行の意識化教材 ・4択 ・●●で囲んで干渉を避ける。ただし、児童の実態に応じて●●で囲んでもよい。
24	違うものを探しましょう(2) ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と●と● 3行	
25	違うものを探しましょう(3) ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と●と● 3行	
26	違うものを探しましょう(4) ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と●と● 3行	
27	違うものを探しましょう(5) ●●で囲んで●と● ●●で囲んで●と● 2行ずつ	
28	違うものを探しましょう(6) ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と● 2行 ●●で囲んで●と●と● 3行	
29	違うものを探しましょう(7) ●●で囲んで●と● ●●で囲んで●と● ●●で囲んで●と● 2行ずつ	

ページ	内 容	指導上の留意点
30	違うものを探しましょう(8) ≡で囲んで≡と≡ ≡で囲んで≡と≡ ≡で囲んで≡と≡ 2行ずつ	
31-35	二つのマスをあわせましょう(1)～(5)	縦行を基準に、次の左と右をあわせる教材
36	読んでみましょう ≡	点字の形と音を結び付ける最初の教材 ・読みやすさを考慮し、初めに音毎にマスあけした言葉を提示し、次にマスあけしない言葉を提示する。
37 38 39 40 41	ア行とカ行の言葉 サ行とタ行の言葉 ナ行とハ行の言葉 マ行とヤ行の言葉 ラ行とワ行の言葉	各行の語列を使う教材 ・各音は≡で囲んで掲載。 ・清音の学習では、該当音から始まる二マスを中心とした身近な名詞を選んで掲載。 ・五十音順の言葉集めで、五十音の仕組みと意識化を図る。 ・形と音は丁寧に結びつける。
42	声に出して読みましょう(五十音表)	五十音表の学習
43	五十音表をたどりましょう 横に読んでみましょう あ□い□う□え□お□か□き□く□け□こ 縦に読んでみましょう あ□か□さ□た□な□は□ま□や□ら□わ 長く伸ばしてみよう あー□かー□さー□たー□なー はー□まー□やー□らー□わー いー□きー□しー□ちー□にー ひー□みー□いー□りー□いー	
44	詰まる音と伸ばす音と撥ねる音 ≡で囲んで、語例3語ずつ	・これらは五十音ではないので、区別して指導する。 ・ここで五十音及び促音・撥音・長音の学習が終了。
45	次の語を読んでみましょう 43語	・児童の実態に合わせて、文字を読む楽しみを味わえる教材を工夫する。 ・児童にとって身近な身体、教科、食べ物などを掲載。

ページ	内 容	指導上の留意点
46 47 48	濁る音の言葉 表 ガ行の言葉 語例 2 語ずつ ザ行とダ行の言葉 語例 2 語ずつ バ行とパ行の言葉 語例 2 語ずつ	各行の語例を使う教材 ・各音は㊦で囲んで掲載。 ・該当音から始まる二マスを中心とした身近な名詞を選んで掲載。 ※「ヂ」「ヅ」は第 2 音目の語
49	拗音 表	・拗音, 拗濁音, 拗半濁音も語例を加えて指導する。
50-51	拗音を使う言葉(1)～(2)	
52	拗濁音と拗半濁音の表	
53	拗濁音と拗半濁音を使う言葉	
54	特殊音の読み方	
55	数字の読み方	・適切な助数詞を付けて示す。
56	文を読んでみましょう(1) 文の区切りは点(。) 文の終わりは丸(。) せんせい、 おはよー。 みなさん、 おはよー。 おひさま、 ぼかぼか。 げんきに あるく。 ばななが すき。 かわわ すべすべ。 まがった かたち。 かわを むくと、 いい におい。 たべると、 あまい。 おいしい ばなな。	・ 2 語文で、児童の生活経験に沿った内容の文例。 ・句点, 読点の導入。
57	文を読んでみましょう(2) いぬが、 いる。 なまえわ、 なにかな。 さわると、 けわ ふさふさ。 いぬが、 てを なめる。 ぺろぺろぺろ。 あったかいね。 かぜが ふく。 まどを、 がたがた。 どあを、 ぎーぎー。 ほんを めくって、 にげて いった。	

ページ	内 容	指導上の留意点
58	<p>文を読んでみましょう(3) はなし ことばにわ, かぎ 「・・・」を つけます。</p> <p>あさの あいさつ, 「おはよー」。 ごはんの まえにわ, 「いただきます」。 ごはんの あとにわ, 「ごちそーさま」。 でかける ときにわ, 「いってきます」。 かえった ときにわ, 「ただいま」。 よるの あいさつ, 「おやすみなさい」。 ああ, ねむい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 語文で, 児童の生活経験に沿った内容の文例 ・ 第 1 カギの導入
59	<p>文を読んでみましょう(4) でんしゃに のる。 ばすに のる。 ほどーを あるく。 らんどせるが おもい。 もー すぐ がっこー。 せんせいが まって いるよ。 はしって いこー。</p>	

資料2 点字の表記習熟のためのドリル

1-2巻末

① 点字練習1-1

読んで みよー, 書いて みよー
おかあさん おばあさん
おにいさん おじいさん
おねえさん ええ ねえ
おとーさん いもーと おとーと

② 点字練習1-2

読んで みよー, 書いて みよー
せんせい とけい いいえ
おおきい おおかみ とおい こおり
ふーせん ゆーひ すーじ
はしろー はなそー たべよー

③ 点字練習1-3

読んで みよー, 書いて みよー
きゃんぷ きゅーしよく きよーしつ でんしゃ
しゅくだい しよくじ ちよきんばこ
ぎゅーにゅー にんぎよー びよーいん じゃんけん
ピッチャー ふりんと こんぴゅーた

④ 点字練習1-4

読んで みよー, 書いて みよー
せっけん がっこー
きっぷ らっぱ こっふ
あまがっぱ びすけつと みずでっぽー
がっかり うっかり こっそり びっくり
よつと まつと らっこ ろけつと

1-3巻末

① 点字練習1-5

読んで みよー, 書いて みよー
かなづち おこづかい みかづき
ちぢむ つづく ちかづく かたづける
ごはんぢやわん はなぢ そこぢから
せかいじゅー じめん ちず いなづま
ひとりずつ うなづく つまづく

② 点字練習1-6

読んで みよー, 書いて みよー
1ねん 20にん 7さい
10ぴき 30ふん 1けんや 14か
1_えん 5_おくえん 3_りつとる
5_え すすむ 20_らしい
2, 3にち 4, 5こ 5, 6百_えん

③ 点字練習1-7

読んで みよー, 書いて みよー
じゅーじろ しこく きゅーしゅー よっかいち
いちろー ごろー さんぺい
しりつ 3ちゅー 2じょーどおり
4じ 24か 4さつ

④ 点字練習1-8

読んで みよー, 書いて みよー
ひとつ ついたち
ふたつ ふつか
みつつ みっか
よつつ よっか
いつつ いつか
むつつ むいか
ななつ なのか
やつつ よーか
このつ このか
とお とおか

2-1巻末

① 点字練習2-1

読んで みよー, 書いて みよー
みんなが している。
みんなが している。
くまさんが いた。
くまさんが いった。

② 点字練習2-2

読んで みよー, 書いて みよー
わたしわ 2ねんせいです。
はなわ きれいです。
えきえ おとーさんを むかえに いきます。
へやの なかえ はいります。

③ 点字練習2-3

読んで みよー, 書いて みよー
あきこ さん なかむら さま たなか どの
さとー くん こいけ し
おねえちゃん さかなやさん くまさん
たぬきくん かえるちゃん おーじさま

2-2巻末

① 点字練習2-4

読んで みよー, 書いて みよー
まん 8さい まる 1にち ぜん 3かん
しんはつめい だい3かん ぜんにほん
ひとり ひとり ぼつり ぼつり
のろのろ ばたばた びゅーびゅー

② 点字練習2-5

読んで みよー, 書いて みよー
べんきよー する
うんどー する
すきつぷ する
のろのろ する
せつする あいする

③ 点字練習2-6

読んで みよー, 書いて みよー
ほんを よむ こと
しよくじを する とき
ぼくの きらいな もの
ふくを きた まま およぐ。

2-3巻末

① 点字練習2-7

読んで みよー, 書いて みよー
じしんが おきた。
ゆのみちやわんが われた。
はなしが つづく。
みちで つまづいた。
いなづまが ひかった。

② 点字練習2-8

読んで みよー, 書いて みよー
たのしい ことを いう。
つまらない ことを いうなよ。
こー いう ことか。
そー いう ことわ せんせいに いえない。
どーして しかられたか いう。

③ 点字練習2-9

読んで みよー, 書いて みよー
ウィルバー ウェルズ ジェンキンス
ひやくいつつあん ラプンツェル
スティーブ アーディゾーニ フォーク

3-1巻末

① 点字練習3-1

読んで みよー, 書いて みよー
ある あきの ひの ことです。
やまから つめたい かぜが ふいて きました。
こー いう ばんわ そとに できたくわ ありません。
でも どー しても できなくてわ なりません。
ああ いやだと おもいました。

② 点字練習3-2

読んで みよー, 書いて みよー
うちゅーわ どー なっているのか しらべて みたい。
おふろの ゆかげんを みて みる。
ここに たいせつな ことが かいて ある。
そとわ ゆきが ふっている。
つくえの うえを きれいに かたづけて いる。

3-2巻末

① 点字練習3-3

読んで みよー, 書いて みよー
この ほんわ, だんだん おもしろく なった。
ねえさんの ほおが, あかくな った。
いもーとの びよーきが, すこし よくな った。
たいふーが とおりすぎると, かぜが なくな った。
おじいちゃんが びよーきで なくな った。

② 点字練習3-4

読んで みよー, 書いて みよー
その ことは, ぼくには かんけい ない。
それは, ぜったいに まちが い ない。
きみが おこるのも, むり ない。
きよーは, がっこーえ おくれないで いこー。
ぼくわ, もー まよわ ない。

3-3巻末

① 点字練習3-5

読んで みよー, 書いて みよー
ごめん ください。
ありがとー ございます。
やって いただく。
おはなし なさる。
ごらん なさい。

② 点字練習3-6

読んで みよー, 書いて みよー
かれ じしんが そー いった。
からだ ぜんたいを つかう。
「よー といあわせ」とわ, といあわせが ひつよーですと いう いみです。
えいよー まんてんの しょくじを とる。
こぶとり じいさんわ, たのしい おはなしです。
ちよこれーと けーきが たべたくな った。

3-4巻末

① 点字練習3-7

読んで みよー、書いて みよー
けん たいいくかんで しあいを おこなう。
まくら かばーを せんたく する。
こーつー じこが おきて いる。
ひなまつりを おねえさんと いわう。
みずさいばいを はじめて みよー。

② 点字練習3-8

読んで みよー、書いて みよー
かれわ、くるしそーな こえを だして いる。
ふゆのよーに さむい ひが つづいて います。
ねこみたいな なきごえが きこえて きた。
よわねを はくなんて きみらしく ない。
つよそーな ちーむめいを きめて ほしい。

4-1巻末

① 点字練習4-1

読んで みよー、書いて みよー
にゅーがく しけん
てれび どらま
おんがく かんしょー
やすみ じかん
らじお たいそー

② 点字練習4-2

読んで みよー、書いて みよー
きよろきよろ するな。
なくなく あきらめる。
ところどころ まちがって いるよ。
やまみちを ふーふー いいながら のぼる。
さむくて がたがた ふるえる。

4-2巻末

① 点字練習4-3

読んで みよー、書いて みよー
むかし むかしの おはなしです。
とおい とおい くにに、おとこのこが すんで いました。
なきながら とぎれ とぎれに、はなしを しました。
かいじゅーが のっし のっし あるいて いた ころです。
ふたりわ わかれ わかれに なりました。

② 点字練習4-4

読んで みよー、書いて みよー
かみのけを きる。
おんなのこが うたう。
そのひぐらしの せいかつ。
てのひらに のせる。
このはが ちる。

4-3巻末

① 点字練習4-5

読んで みよー, 書いて みよー
おばけ やしきが こわくて さげびつづけて いる。
ろーかわ すべりにくく する ひつよーが あります。
やきゅー たいかいが めのまえに ちかついた。
きゅーに なきはじめてので, ぼくわ びっくり した。
きのーの できごとを, おもしろおかしく はなして いる。
この すとつぷ うおっちは つかいやすい。

② 点字練習4-6

読んで みよー, 書いて みよー
かぶしきがいしゃ かがみびらき すいしゃごや
さつきよくしゃめい しよーちゅーがっこー
とどーふけん しーこーしよー
しちよーそんちよー かいすいよくじよー

4-4巻末

① 点字練習4-7

間違いを すべて さがして みよー
こずつみが きよー とーちやくした。
どうなつを たなかせんせいが おみあげに くださった。
まいにち ごちそーを たべていた。
おーどーりの こうさてんを みぎへ まがると, みかずきが みえて いた。
さかなや さんで かいものを し, こーりを 入れて もらった。

② 点字練習4-8

間違いを すべて さがして みよー
くま さんが, はしって きた。
ねずみ くんわ, 「きやー」と, おおごえを だしています。
そのあとから, さんびきの すずめばちが あとを おってきました。
どうぶつひろばわ, おおさわぎになりました。

5-1巻末

① 点字練習5-1

読んで みよー, 書いて みよー
A こーす CD ふれーやー TV ばんぐみ びたみん C
NHK SOS JR UFO
B_がた X_せん A_ぐみ
A4はん 10cm 3LDK

② 点字練習5-2

読んで みよー, 書いて みよー
なつめ そーせき ちよ
ばぶろ ぴかそ が
よさの あきこ やく
たにかわ しゅんたろー さく

5-2 卷末

① 点字練習5-3

間違いを さがして みよー
Eメールの アドレスを きーた。
Y じろわ, みとーしが わるい。
ねん がっ びを, ここに きにゅーしてください。
ここで どおぞ でんわして ください。

② 点字練習5-4

間違いを さがして みよー
かわばた やすなりさく
1ろーが ひつとを うった。
A_こーすは, ひじょーに こーきゅーな しよくじです。
やすみじかんに そとで どっじぼーるを やった。
しばらくして ははが もどってきた。

5-3 卷末

① 点字練習5-5

間違いを さがして みよー
きのお おーさかから かえった。
ともだちが おたんじょおかいに まねーて くれた。
てづくり クッキーを もってきて くれた。
すこしづつ たべる よーに する。
あのこは おなじ ぐらすの おんなの こです。

② 点字練習5-6

間違いを さがして みよー
かれは どう して ないているの だろう。
かたづけもしないで その ままの じょーたい だった。
ラーメンを いちにんまえ たのむ。
あのひとには 1どに いっても わからないよ。
あか えんぴつで いみふめいな ことばを かいた。

5-4 卷末

① 点字練習5-7

読んで みよー, 書いて みよー
ウォルター ハヴリーシン
シルヴァスタイン スレイヴイン ヴェルヌ
ファールブル フィールド シェル
ピトウス レイチェル

② 点字練習5-8

次の符号の使い方を覚えよー
⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第1カギ(会話や強調する時に使う)
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第2カギ
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ふたえカギ(本の名前や, 第1カギの中の語を囲む時に使う)
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第1指示符(傍点や強調する時に使う)
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ 第3指示符(試験問題で, 傍線箇所を示す時に使う)

[資料5] 「かたかなで書くことば」(2年下P35)

どーぶつが がっきを えんそー して います。 かたかなにわ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が つけて あります。
どーぶつの 「オーケストラ」です。
どーぶつたちが 「コンサート」を して います。
「コアラ」が 「マラカス」を ふって います。
うさぎが 「ピアノ」を ひいて います。
さるわ 「ギター」を ひき、ねこわ 「バイオリン」を ひいて います。
ぶたわ けんばん「ハーモニカ」を ふき、いぬわ 「トランペット」を ふいて います。
いぬわ 「タンブリン」を たたき、「パンダ」わ 「カスタネット」を ならして います。
「トライアングル」を ならして いるのわ しろくまです。
くまわ 「ドラム」を たたいて います。
いぬわ 「シンバル」を ならします。
ねずみわ じょーずに 「オルガン」を ひきます。

[資料6] 「かん字のひろば④」(2年下P69)

1年生で ならった かん字 — つぎの 数を あらわす 言葉を つかって、さんすーの もんだいを つくりましょー。1年生で ならった かん字にわ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が つけて あります。

(れい)

「70㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿えん」の だいこんを 「1ぼん」 かいました。「100㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿えんだま」を だすと、おつりわ いくらでしょーか。

「はな」や はちうえ 「9」はち
「はな」たば 「4」たば
べんとーや 「ひと」つ 「600㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿えん」
「せんえん」きつ 「100㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿えんだま」
だいこん 「1ぼん」 「70㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿えん」 ねこ 「5」ひき
「こ」ども 「8にん」 「いぬ」 「2」ひき 「3」びき

[資料7] 「かん字のひろば⑤」(2年下P91)

1年生で ならった かん字 — 次の 言葉を使つて、主語と 述語の つなかりに 気をつけて、公園の よーすを 書きましょー。主語の あとにわ、㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿をつけましょー。1年生で ならった かん字にわ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が つけて あります。

(れい)

「おんな」の「こ」が、公園の 中を、かけ「足」で 走って いきます。
「あおぞら」 「き」の 「うえ」の 「ねこ」
「き」の 「した」の 「おとこ」の「こ」
「おんな」の「こ」 かけ「足」
とんねるの ゆーぐに 「で」る 「はい」る
「やす」む 「ちから」もち
おとーさんの うでに ぶらさがる 「こ」どもたち
「たけ」うま 「めいじん」

*以下より特に必要な場合以外は普通の文字表記に準じる。

[資料8] 「つづけてみよう」(3年上P7)

㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ 場面の様子を思い浮かべながら読み、音読しよう。

「きつつきの商売」

林原 玉枝 作

1. 「きつつきの商売」の1を読む。

じゅぎょうのはじめに、日づけや、その日の学習のめあてなどを書く。

(分からない言葉コーナー)

えりすぐり
こしらえる

分からない言葉があったら、まとめて書き出しておく。

(今日のまとめ)

「コーン。」というみじかい言葉でも、いろいろな読み方をする人がいた。
長くのばして読むと、遠くにひびいているかんじがつたわったと思った。

じゅぎょうの終わりに、ふり返ってまとめを書く。

[資料9] 「国語辞典の使い方」 (3年上P25)

(国語辞典の例)

ひろい (見出し語)

ひろ__い (漢字での書き表し方)

1. はばや広さが大きい。(例) 道が広い 広い海 (対義語) 狭い
2. およぶ範囲が大きい。(例) 名前が広く知れわたる。(対義語) 狭い
3. こせこせしないで、ゆったりしている。(例) 心が広い人。(対義語) 狭い

(注)

- (1) 言葉の意味 — いくつかの意味がのっていることもあります。
- (2) 言葉のつかい方 — (例) としてその言葉をつかったみじかい文がのっています。
- (3) 漢字での書きあらわし方 — その言葉を漢字でどう書き表すかがのっています。
- (4) 対義語 — 反対の意味の言葉がのっています。

[資料10] 「きちんとつたえるために」 (3年上P36)

これまでに、言いたいことがうまく伝わらなかったことはありませんか。
相手にきちんと伝えるために、落としてはいけないことは何かを考えましょう。
次の(例1)と(例2)の1～4の場面を読んで、あとのことを考えてみましょう。

(例1)

1

青いワンピースを着た女の子が、白い犬を散歩させています。それをちあきさんとかおりさんが見ています。

ちあき「あつ、かわいい」

2

(女の子と犬が見えなくなってから)

ちあき「かわいかったね。」

かおり「うん。わたしもほしくなっちゃった。」

3

ちあき「でも、かおりちゃんの家には、もう犬はいるでしょ。」

かおり「え?なんのこと?」

4

ちあき「さっきの犬のことじゃないの。」

かおり「わたしは、女の子がきていた洋服の事を言ってたんだよ。」

1. どうして、話が食い違ってしまったのでしょうか。
2. ちあきさんとかおりさんは、それぞれどのように言えば良かったのでしょうか。

(例2)

1

ひろしさんが自分の部屋で宿題をしていると、台所の方からお母さんの声がしました。

「ひろし、ちょっとおいで。」

2

ひろしさんは、もう少しで宿題が終わりそうだと思いますながら、

「はあい、すぐいくよ。」

と答えました。

3

10分後、「おかあさん、何の用事かなあ。」と思いながら階段を降りました。

4

台所に行くと、テーブルの上にお皿がありました。それを見たひろしさんはあせりました。

「あっ、アイスクリームがとけてる。」

3. ひろしさんとお母さんは、それぞれどのように言えばよかったですでしょうか。

[資料1 1] 「漢字の広場 二年生で習った漢字1」 (3年上P39)

動物園の様子を書いたお話に出てきた言葉です。どんな動物がいますか。どんなものがありますか。2年生で習った漢字には「・・・」がつけてあります。

(れい) くじゃくが、きれいな「羽」を大きく「広」げています。

いりぐち — けんを 「売」る 「買」う 「門」

あざらし — 「少」ない

ぺんぎん — 「多」い

くじゃく — 「羽」 「広」げる

「うま」 — 2 「頭」

きりん — 「首」 「長」い 「黄色」

さる — 「高」い 木 「強」い 「弱」い

「うし」 — 「鳴」く

えんない — まちあわせの 「時間」 「同」じ ふく 「売店」 1 「万」円

[資料1 2] 「言葉で遊ぼう」 (3年上P40)

(1) の段落には、次のことが書かれています。

(問い) 「言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。また、どのような楽しさがあるのでしょうか。」

(2) の段落には、次のことが書かれています。

言葉遊びの名前 → 「しゃれ」

言葉遊びの楽しさ → 「しゃれには、言葉のもつ音と意味とを組み合わせるといふ楽しさがあるのです。」

1. (問い) に書かれていることをたしかめましょう。
2. (3) (4) の段落で、(問い) の答えに当たる部分を抜き出してみましょう。
3. 知っている言葉遊びはありましたか。友だちと話しましょう。

[資料1 3] 「気になる記号」 (3年上P54)

通学路で
自転車横断帯マーク
通学路マーク
車両進入禁止マーク
学校の中で
非常口マーク
ベルマーク
家の中で
アイロンマーク
いろいろなリサイクルマーク

[資料1 4] 「気になる記号」 (3年上P56)

(山口さんのメモ)

1. 何を伝えようとしているか。
アルミとして分別する。
2. 伝えるためのくふう。
アルミのリサイクルマークを見て考えたこと
(1) 矢じるしでかこまれている。— リサイクルということを表している。
(2) まん中に大きく「アルミ」と書いてある。— 「アルミ」でできているということがよく分かる。
(3) 三角形。— 「スチール」と書かれた記号は、円い形をしていた。

[資料1 5] 「漢字の広場 二年生で習った漢字2」 (3年上P61)

たから物をさがしに出かけた、男の子のお話を書きましょう。「そこで」「けれども」などを使ってみましょう。2年生で習った漢字には「・・・」がつけてあります。

(れい) まなぶくんは、たから物のある場所がかかれた「地図」を見つけました。そこで、ぼうけんに「行く」ことにしました。

「地図」 「家」 「行く」 1本「道」 「元」気 「方角」 「親友」 「会」う
「太」い へび 「心細」い 立ち「止」まる 「谷」 「通」る 「弓矢」 天「才」
「当」たる 「岩」 「戸」 「丸」い 「引」く 「光」る たから 「帰」る

[資料1 6] 「「ありがとう」を伝えよう」 (3年上P84)

1. 前付け
(1) 相手の名前, (2) 日づけ, (3) 自分の名前のじゅんで書きます。
2. はじめのあいさつ
きせつの言葉を入れたり, …
3. 本文
お礼やおねがい, あんないなど, …。
4. むすびのあいさつ
わかれのあいさつや, …。

[資料17] 「「ありがとう」を伝えよう」(3年上P86)
(はがきや封書の宛名の書き方)

(ゆー 194-0001)
東京都町田市つくし野5丁目3-1山田マンション103
山下 洋一 様
(ゆー 194-0022)
東京都町田市森野6丁目4-1
森田 のりこ

[資料18] 「漢字の広場 二年生で習った漢字3」(3年上P87)

時を表す言葉を使って、日曜日の出来事と、今週のよていを書きましょう。2年生で習った漢字には、「…」がつけてあります。

(れい) 日「曜」日の「朝」は、おきるのがおそくなりました。

(日曜日のできごと)

日「曜」日 「朝」 「顔」 「妹」 「室内」 人「形」 「午前」 「外」 「何回」 と
ぶ 「午後」 ともだちが 「来」る 「半分」こ 「父」 「母」 「肉」を きる 「夜」 「思」
いだす 日「記」

(今週のよてい)

「今週」 「弟」 「当番」 「毎」日 「兄」 「小刀」 「作」る 「姉」 テレビ「番組」
「楽」しみ 「東京」 「行」く

[資料19] 「漢字の広場 二年生で習った漢字4」(3年下P25)

町の様子をせつめいする文を書きましょう。2年生で習った漢字には、「…」がつけてあります。

(れい) わたしの「家」は、町の「北」の方にあります。「近」所に、犬をかつている「家」があります。

「北」 「家」 「市場」 「活」気 「自」動車 「東」 「古」い 「寺」
「公園」 「線路」 「南」 「広場」 「走」る 「点数」 「交番」 「西」
「新」しい 「近」所 天文「台」

[資料20] 「食べ物のひみつを教えます」(3年下P40)

整理の例

ざいりょう「米」
(おいしく食べる工夫と食品)
その形のままたく → ごはん
むす → もち
こなにする → 白玉

[資料21] 「漢字の広場 2年生で習った漢字5」(3年下P67)

学校では、どんなことをしていますか。日記をつけるように書きましょう。2年生で習った漢字には「…」がつけてあります。

(れい) 「理科」の時間に、かん「電池」を使って、じっけんをした。

「国語」—「聞」く 発「言」 「話」し「合」い

「社会」—「知」る 「新聞」 「考」える

「算数」—「計」算 「教」える 「答」える

「図画工作」—「絵」 「画用紙」 「切」る

「理科」—「回」路 かん「電池」

「黒」板 日「直」 「読」書

[資料2 2] 「しりょうからわかる，小学生のこと」 (3年下P88)

資料(1) 小学生が1か月間で読んだ本(5月)

平成15年 — 8.0さつ
 平成16年 — 7.7さつ
 . . .

(「読書調査」をもとに作成)

資料(2) 全国の小学生の数

年度	男子の数	女子の数	合計の順に記載。単位	人。
20	3643995	3477786	7121781	
21	3614663	3448943	7063606	
. . .				

(「学校基本調査」をもとに作成)

資料(3) しょうらいのゆめ

(男子)

- 1位 サッカー選手
- 2位 野球選手
- 3位 学者・はかせ
- 4位 お医者さん
- 5位 食べ物屋さん

(女子)

- 1位 食べ物屋さん
- 2位 保育園・幼稚園の先生
- 3位 学校の先生(習い事の先生)
- 4位 歌手・タレント
- 5位 かんごしさん

(調査「大人になったらなりたいもの」をもとに作成)

[資料2 3] 漢字の広場 2年生で習った漢字6 (3年下P103)

それぞれのきせつで、だれがどんなことをしたでしょう。修飾語を使って、まわりの様子もくわしく表してみましよう。2年生で習った漢字には「. . .」がつけてあります。

(れい) わたしは、「春」に、友だちと「野原」にピクニックに出かけました。空は、すっきりと「晴」れ、あたたかな「風」がふいていました。

「春」— 「晴」れ 「鳥」 「風」 「野原」 「明」るい 「昼」ごはん 「食」べる
 「夏」— しろい「雲」 「海」 「船」 「魚」 「体」そう 「麦茶」 「岩」
 「秋」— 「とおい やま」ごと 「き」しゃ 「ある」く 「こめ」
 「冬」— 「夜」空 「星」 「雪」 「毛」糸

[資料24] 「漢字の組み立て」 (4年上P27)

かんむり



くさかんむり

点図

「はな」び かい「か」
「な」の「はな」 や「さい」
め「ぐすり」 いちよう「やく」

うかんむり

点図

「いえ」じ 「か」てい
「やす」らか 「あん」ぜん

たけかんむり

点図

え「ふで」 もう「ひつ」
き「ばこ」 「はこ」にわ

※以下同様

あし

ころ

「わる」もの 「あく」じ

「い」み けつ「い」

「かん」しん きょう「かん」

れんが(れっか) ひ「で」り 「しょう」めい

「あつ」い ゆ はつ「ねつ」

にょう

しんにょう(しんにゅう)

「とお」で 「えん」そく

「ちか」「みち」 「きん」けい

「とお」り「みち」 「つう」がく

たれ

まだれ

「ふ」りつ きょうと「ふ」

「ひろ」ば 「こう」こく

「みせ」さき しょう「てん」がい

かまえ

くにかまえ

「と」しよ 「ず」めん

こう「えん」 でん「えん」

しま「ぐに」 がい「こく」

もんがまえ うみ「びら」き 「かい」し

「せき」しよ 「かん」けい

「ま」ちか き「かん」

[資料25] 「話す言葉は同じでも」 (4年上P38)

1. 本を読んでいるたかしさんに、ひとみさんが話しかけました。たかしさんの返事で・・・。

ひとみ 「今日始めて25メートル泳げたよ。」

たかし (本にむかったまま) 「そう。それは、よかったね。」

ひとみ 「今日初めて25メートル泳げたよ。」

たかし (ひとみさんの方をむいて) 「そう。それはよかったね。」

2. 次の会話は、ひとみさんとたかしさんの会話です。たかしさんの返事は、なぜ・・・。

ひとみ 「音楽室にノートをおきわすれていたよ。」

たかし (うれしそうに) 「助かった。ありがとう。」

ひとみ 「音楽室にノートをおきわすれていたよ。」

たかし (すまなさそうに) 「ごめんなさい。これからは、気をつけるね。」

3. ひとみさんとたかしさんが話しています。間をおいたのと・・・。

ひとみ 「さっき読んでいた本をかしてほしいのだけど。」

たかし (間を置かず) 「いいよ。」

ひとみ 「さっき読んでいた本をかしてほしいのだけど。」

たかし (間を置いて) 「いいよ。」

[資料26] 「漢字の広場 3年生で習った漢字 1」 (4年上P51)

次の言葉を使って、この町の住人になったつもりで、町やまわりの様子を紹介する文章を書きましょう。
3年生で習った漢字には「・・・」がつけてあります。

(例)

市「役所」のとなりにある地「区」センターで、しみん教室への参加「申」しこみができます。

「島」 「港」 お「宮」 「坂」道 「宿」 「鉄橋」 「放送局」 中「央」 「都」市 「駅」
「県」立図書「館」 地「区」センター 「申」しこみ 市「役所」 「曲」がり道 「農」家
「羊」 「温」室 「畑」 「植」える 「湖」 つりボート 「薬局」 「銀」行 「病院」 「医者」
「商」店 店「主」 野菜の「安」売り 行「列」

[資料27] 「漢字の広場 3年生で習った漢字 2」 (4年上P89)

次の言葉を使って、それぞれの人になったつもりで、夏の楽しみを文章に書きましょう。
3年生で習った漢字には、「・・・」がつけてあります。

(例)

わたしは、夏休みに、家「族」で九「州」へ「旅」行に行きます。

「泳」ぐ「練習」 「暑」い 太「陽」 「波」 「息」つぎ

夏「祭」り かき「氷」 「有」名人 まとめて「命」中

家「族」 「持」つ 「荷物」 出「発」 「速」い 「旅」行 「予定」 九「州」

「鉄板」バーベキュー 「油」 「配」る 「炭」 「平等」 「注」ぐ 「全部」 「味」わう

自「由」研究 「豆」 「調」べる 「温度」 「緑」色 「葉」 「根」

[資料28] 「どんな読み方をしているか」 (4年上P92)

(文章中の朱線部は第3指示符で囲む。)

物語

1 たそがれどきの国

学校から帰ってきたあかりは、見知らぬねこが家のげんかんの前に・・・。

「あかり」「ねこ」— 登場人物がわかる。

「家の玄関の前」— 場所がわかる。

「秋の夕日」— いつの話かが分かる。

[資料29] 「読むことについて考えよう」 (4年上P99)

1. 題名や作者・筆名を書く。
2. 相手がきょうみをもってくれるように、作品の内容をまとめる。
3. 次のようなことを書こう。
 - (1) 作品を読んだ感想
 - (2) その作品をしょうかいした理由
 - (3) 心にのこった文章や言葉の引用
 - (4) 作品の内容に関わる絵

(池田さんの紹介文)

「かげ」

ニコライストラトコフさく

まつやさやかやく

ないよう ㄩㄩㄩㄩ しずかな森の中で、1頭の・・・だろう。

ここがおすすめ ㄩㄩㄩㄩ 「かげ」を読んで、まるで自分も・・・ください。

(いけだまい)

[資料30] 「カンジーはかせの漢字しりとり」 (4年上P106)

1. 次は、同じ読み方でつながる漢字しりとりになっています。熟語の意味を調べましょう。

(1) 英「語」→午「前」→全「体」→大「会」→絵画

(2) 航「海」→回「答」→投「票」→表「記」→希望

(3) 力「士」→司「会」→開「始」→使「用」→葉脈

(4) 直「径」→計「算」→参「加」→夏「期」→紀行

2. ㄩㄩㄩㄩㄩㄩにあてはまる言葉を考えて、同じ読み方でつながる漢字しりとりを完成させましょう。

(1) 合体→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→用紙→氏名→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→注意

(2) 一兆円→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→速度→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→大臣→神社

(3) 弓矢→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→最高→校歌→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→億万長者

(4) 全部→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→時期→記者→ㄩㄩㄩㄩㄩㄩ→森林

[資料31] 「漢字の広場 3年生で習った漢字 3」 (4年上P120)

次の言葉を使って、場面や出来事を考えながら、二つの昔話を完成させましょう。

句読点に気をつけて、読み直しましょう。3年生で習った漢字には、「・・・」がつけてあります。

(れい)

ある日のことです。おじいさんは、昼ごはんのおむすびを「落」としてしまいました。

おむすびころりん

むかしばなしの「始」まりです

おじいさんがおむすびを「落」とす

おむすびが「転」がる。

おじいさんがおむすびを「追」う

おじいさんが「急」ぐ 「進」む

あなが「暗」い 「深」い

おじいさんが「飲」む「酒」 「皿」

ねずみがお「礼」

うちでのこづち「幸福」

「終」わり

うらしまたろう

むかしばなしの「始」まりです

こどもたちが海「岸」でかめをいじめている

「悪」いこどもたち かめは「悲」しい

うらしまたろうはかめを「助」ける

こどもたちは「去」る

かめに「乗」る

りゅうぐうじょうに「向」かう

りゅうぐうじょうに「着」く

「美」しいおひめさま

玉手「箱」を「受」け「取」る

「開」ける

「終」わり

[資料3 2] 「漢字の広場 3年生で習った漢字 4」 (4年下P63)

次の言葉を使って、ある日の学校の様子を書いてみましょう。どこでどんなことが行われていますか。想像したことも加えて、文章に書きましょう。3年生で習った漢字にはㇿ ㇿがついています。

(例)

図書館で、女の子が、「童」話と「神」話の本をさがしています。
図書館 「世界」地図 「神」話 「童」話 図書「委員」 「使」う 「返」す
教室 「起」立 「指」名 「面」積 「倍」「横」「問題」
保健室 「鼻血」「歯」
「昔」「遊」び 竹とんぼ 「昭和」「感想」「実物」
体「育館」 やねの上で「仕事」
花だん じょうろが「軽」い 「重」い 「係」「相談」
運動場 「次」「笛」 校「庭」 はやさ 「秒」

[資料3 3] 「漢字の広場 3年生で習った漢字 5」 (4年下P87)

休日の様子です。次の言葉を使って、どこで、どんな人が、どんなことをしているのかを書きましょう。3年生で習った漢字には「」がついてあります。

(例)

二「階」では、お兄さんが、「漢」字の「勉」強をしています。

車「庫」「屋根」
「柱」 女の子「身」長をはかる
「両」親 お「湯」「消」す 「皮」むき
二「階」「洋服」「整」理
「漢」字 「勉」強
「遊具」「寒」い 「写真」
「美化」 ごみを「拾」う ねこが「登」る
「短」い 信「号」「待」つ 道「路」
お「客様」 1「丁」目 手「帳」「住所」

[資料3 4] 「聞き取りメモの工夫」 (下P90)

(宮下さんのメモ)

放送委員会

- (し) — 毎日、決まった時間。放送。集会、用意。
- (た) — 給食の時間。放送考える。音楽、クイズ、お話。

はじめ、きんちょう すぐなれる

(注) (し) は仕事の略 (た) は楽しみの略

(森田さんのメモ)

放送委員会

仕事はㇿㇿ

- (1) 毎日決まった時間に放送する。
- (2) 集会のときに、マイクを用意する。

楽しみはㇿㇿ

給食の時間の放送を・・・考えられる。

今は曜日ごと。

はじめはきんちょうする。

でも、すぐになれる。

日本のトキがぜつめつしてからも、トキをふやすための努力を続けていたから、今回、ひなが生まれたのだと思う。

これからも、ひなが元気に育ち、無事に巣立ってほしい。

└.....┘

[資料38] (5年P42)

漢字の成り立ち (P42下段から、次のように修正)

漢字の成り立ちには、大きく分けて、次の四つものがあります。

1. 目に見える物の形を具体的にえがいたもの。

(漢字の例) 馬・山・門・火・手

馬 (象形文字) → 馬 (点線文字)

2. 目に見えない事柄を、印や記号を使って表したもの。

(漢字の例) 上・下・漢数字の3

丄 (象形文字) → 上 (点線文字)

3. 漢字の意味を組み合わせたもの

(漢字の例) 鳴く・信じる・林

「とり」と「くち」→「な__く」

4. 音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの。

(漢字の例) 草・粉

意味を表す部分

米 (点線文字) ┌ 「ふん こ こな」

粉 (点線文字)

音を表す部分 └

分 (点線文字)

[資料39] (5年P55)

漢字の広場 (2) 4年生で習った漢字

作家になったつもりで、登山家の半生を文章に書きましょう。4年生で習った漢字には「」がつけてあります。

(例) 登山家の「氏」名は、高山のぼるといい〇〇県〇〇「郡」に生まれた。

「氏」名 〇〇県〇〇「郡」 「卒」業 「働」く 「初」めて 「参加」
自「然」 「熱」中 「続」ける 目「標」 「費」用 「貯」金
悪天「候」 「失敗」 「残念」 反「省」する 「特訓」 「必」死
「努」力 「仲」間 「士」気が上がる 「副隊」長
「冷」たい雨
「協」力 「不」安 苦「勞」 「信念」 「良好」 「希望」
「勇」気 「成功」 「旗」 「無」事 悲「願」 「喜」ぶ 「祝」福

[資料40] (5年P85)

漢字の広場 (3) 4年生で習った漢字

各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように、文章を書きましょう。4年生で習った漢字には「」がつけてあります。

(例) 日本「各」地の「産」業について学習した。

日本「各」地 都道「府」県 「産」業 「漁」業
「億」 「兆」 「単位」 半「径」 面「積」 「底辺」 「例」題
「試験管」 「加熱」 「固」体 「変」化 「観察」 方「法」
葉「脈」 「芽」 「種」
「給」食 「栄養」 「満」点 「健康」 「焼」き魚

合「唱」 楽「器」 「覚」える
号「令」 1「周」する

[資料4 1] (5年P135)

漢字の広場(4) 4年生で習った漢字

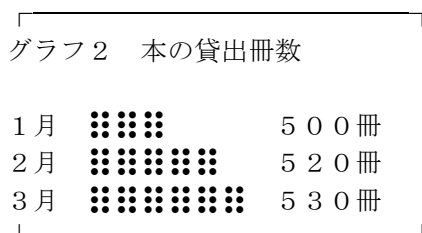
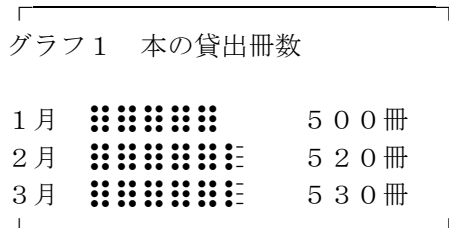
だれが、どこで、何をしていますか。主語と述語の関係や、読点の位置に気をつけて、文を書きましょう。4年生で習った漢字には「」がつけてあります。

(例) おじいさんが、「浴室の「鏡」をぴかぴかにみがいています。

「巢」箱 取り「付」ける 「軍」手 「夫」 「笑」う 「散」歩 配「達」
園「芸」 「観賞」 「愛」犬 首「輪」
「浴」室 「鏡」 「照」明 広「告」 「衣料」品
週「末」 「孫」 「兵隊」 ご「飯」 「梅」ぼし 「材料」 小麦「粉」
「塩」 分「量」 ケーキ「型」 「泣」く 消「毒」 「包帯」
「救」急箱 「胃腸」薬

[資料4 2] (5年P148)

「本の貸出冊数」のグラフ



[資料4 3] (5年P152)

(表) ごみの総排出量の推移

年	一人一日あたり	総排出量
2001	1180g	5468万t
2002	1166g	5420万t
2003	1163g	5427万t
2004	1146g	5338万t
2005	1131g	5272万t
2006	1115g	5202万t
2007	1089g	5082万t
2008	1033g	4811万t
2009	994g	4625万t
2010	976g	4536万t

(環境省「日本の廃棄物処理 平成22年度版」より)

[資料4 4] (5年P154)

同じ読み方の漢字

1. 次の「 」で示した言葉は、同じ読み方でもそれぞれ違う漢字を使います。

- (1) 「あつい」お茶
- (2) 「あつい」夏
- (3) 「あつい」辞書

(1)～(3)は、いずれも「あつい」という同じ訓をもちますが、意味や使い方はちがいます。前後の関係から、どんな漢字を使うのが適切かを考えましょう。

2. 次の文の「 」で示した言葉は、同じ読み方でも違う漢字を使います。

- (1) さす

時計の針が十二時を「さす」。

武士がこしに刀を「さす」。

- (2) おう

重大な責任を「おう」。

にげた犯人を「おう」。

- (3) はかる

肥料の入ったふくろの重さを「はかる」。

校庭の木の高さを「はかる」。

往復にかかる時間を「はかる」。

3. 同じ訓の漢字を集めましょう。それぞれの漢字の意味を調べ、文を作りましょう。

[資料4 5] (5年P155)

(1) 1週「間」前に発売された週「刊」誌。

(2) 公「園」で、人形劇の公「演」を見た。

漢字には、(1)の「かん」と(2)の「えん」のように、同じ音を持つものがあります。そのため、漢字を組み合わせてできる熟語にも、同じ読み方で意味の違うものがあります。

4. 次の文を読んで、同じ読み方をする部分を抜き出し、それぞれの言葉の意味を、国語辞典で調べましょう。

[資料4 6] (5年P187)

漢字の広場(5) 4年生で習った漢字

駅からおばあちゃんの家までは、どのような道順で行けるでしょうか。案内する文を書きましょう。「まず」「それから」など、つなぎ言葉を使ってみましょう。4年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例) 「改札」を出たら、まず、百「貨」店の先を左「折」してください。

「改札」 「徒」歩 左「折」 百「貨」店 バス「停」 「印刷」所

「倉」庫 「博」物館 「建」物 「低」い 「陸」上 「競」技場

「殺」風 「景」 「街灯」 両「側」 「松」の木 野「菜」畑

「清」流 「浅」い 「囲」い 「牧」場 目「的」地

[資料4 7] (5年P223)

方言と共通語

(方言分布図)

塩味の足りない汁の味を、どう表現するか。

「あまい」「あまか」などー北海道、東北地方、関東甲信越地方の一部、東海地方の一部、近畿地方の一部、中国地方、四国地方の瀬戸内海側、九州、沖縄県

「うすい」「うすか」などー北海道の一部、宮城県の一部、関東甲信越地方の一部、東海・北陸地方の一部、近畿地方の一部、四国地方の太平洋側、九州の一部、沖縄県

「みずくさい」「みずくさか」などー近畿地方、岐阜県の一部、福井県の一部、中国・四国地方瀬戸内海側の一部、九州の一部

「しょーむない」などー北陸地方

[資料48] (5年P225)

(写真)

- (1) かずらの吊り橋
- (2) 木の枝の上で向かい合うカブトムシ
- (3) 桜が満開の学校
- (4) 広い野原で天の川を眺める母と子
- (5) 幼い兄弟と新幹線
- (6) 雪の上にてんてんと続く動物の足跡
- (7) 草の上であおむけに眠る子猫

[資料49] (5年P226)

1. (1)～(7)の中から好きな一場面を選びましょう。次のように、「時」「場所」「人物」「気持ち」に関わる言葉を想定し、書き出しましょう。

(3)を選んだ場合の例

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」
時—春休み 天気の良い日 お昼過ぎ
場所—だれもない校庭 学校 校舎 桜の木の下 満開
人物—五年生の男の子 親友 転校した友達
気持ち—どきどき・そわそわ 待ち合わせ 落ち着かない
「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

[資料50] (5年P229)

漢字の広場(6) 4年生で習った漢字

新聞記者になって、出来事を報道する文章を書きましょう。「いつ」「どこで」「だれが(なにが)」など、必要な事柄を考えましょう。4年生で習った漢字には「」がつけてあります。

(例)今日の午後、駅前で政「治」家が演説した。

- 「選挙」 投「票」 国会「議」事「堂」 大「臣」 「約束」
- 「未」来 「共」感 「積極的」 「要求」 政「治」家 公「害」
- 「課」題 「関」心
- 「試」合 大「差」 「結果」 「得」点 「連」勝 記「録」
- 「機械」 「完成」 分「別」 「説」明
- 公「民」館 けいさつ「官」 「老」人 対「象」
- 「昨」夜 「飛」行「機」 「欠航」

[資料51] (5年P256)

通信文のいろいろ

(手紙の型)

- ア. 初めの挨拶—「拝啓」などの頭語・季節の言葉・相手の様子を尋ねる言葉・自分の紹介など。
- イ. 本文—手紙の用件(お礼, お願い, 案内, お知らせなど)。
- ウ. 結びの挨拶—別れの挨拶・相手の健康を気遣う言葉・「敬具」などの結語など。
- エ. 後付け・前付け—日付・自分の名前・相手の名前。団体に出す時は、「様」のかわりに「御中」をつける。

縦書きの手紙では、ア. イ. ウ. エ. の順に書きますが、横書きの手紙ではエ. ア. イ. ウ. の順に書きます。点字の手紙は、相手の名前、日付、自分の名前を前付けとして最初に書きますが、日付、自分の名前を後付として最後に書くこともあります。

(例1)

大岩市役所環境課御中

2015年5月14日

大岩小学校
5年2組 寺西広一

初めてお手紙を差し上げます。

ぼくは、大岩小学校5年生の寺西広一といいます。

ぼくのクラスでは、今、ごみ問題について考える学習をしています。一人一人が課題を持って調べるのですが、ぼくは、市全体のごみの量や種類について知りたいと考えました。それで、次のことについて教えていただければと思っています。おいそがしいところを申し訳ありませんが、よろしくお願いします。

(質問)

1. 大岩市で1週間に集められるごみの量は、・・・

(例2)

大岩市役所環境課御中

拝啓

新緑が美しい季節になりました。初めてお手紙を差し上げます。ぼくは、大岩小学校5年生の寺西広一といいます。

ぼくのクラスでは、今、ごみ問題について考える学習をしています。一人一人が課題を持って調べるのですが、ぼくは、市全体のごみの量や種類について知りたいと考えました。それで、次のことについて教えていただければと思っています。おいそがしいところを申しわけありませんが、よろしくお願いします。

・・・

暑い日が続きますが、みなさまお体を大切になさってください。

敬具

平成27年5月14日

大岩小学校
5年2組 寺西広一

[資料5 2] 「漢字の広場 5年生で習った漢字1」 (6年 P31)

5年生で習った漢字 — 町のあちこちで、いろいろな出来事が起こっています。次の言葉を使い、出来事を記事にして、町の人に伝えましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

お寺では、文化「財」である「仏像」をどのように「保護」していくかを話しています。

花見 「桜」 はい「句」会
「仏像」 文化「財」 「保護」
畑 「耕」す 「肥」料
「復旧」工事 立ち入り「禁」止
近所の「銭湯」 改「築」
交通 事「故」 原「因」 「現」場「検証」
「団」地 ひっこし 入「居」 「往復」
「防災」訓練 「燃」える
新ろう 新「婦」 祝「賀」
〇〇県の県「境」
水「質」 調「査」 〇〇川の「河」口
ふね つぎの「寄」港地

[資料5 3] 「時計の時間と心の時間」 (6年 P38)

実験(1)時間帯による時間の感じ方の変化

計測した時刻ごとに、複数の参加者の記録を平均し、そのおよその数値を表として表した。

朝(朝食前)	36秒
正午ごろ	32秒
午後5時ごろ	30秒
夜(寝る前)	35秒

[資料54] 「学級討論会をしよう」(6年 P49)
(「討論を聞くグループ」の中村さんのメモ)

学級文庫にまんがを置いてもよいか
(初めの主張)
肯定 — 楽しい学級文庫に。
→利用者増える。
→まんがから、他の本も読むように。
否定 — 家で読まない、学習に役立つ本を読む場に。
→学校でもまんがばかりになる。
「楽しい学級文庫に」と「学習に役立つ本を読む場に」では、求める役割がちがう。
「他の本も読むように」は本当か。
「まんがばかりになる」の理由は何か。
(質疑応答)
・・・

[資料55] 「漢字の形と音・意味」(6年 P52-53)
(同じ部分で同じ音)

- (1) 我々の要「きゅう」が認められた。
- (2) プロ野「きゅう」のリーグ戦が開幕した。
- (3) けが人は、無事に「きゅう」助された。
よう「きゅう」 や「きゅう」 「きゅう」じよ

求 球 救

(1)～(3)の「」の付いた言葉は、違う漢字が入りますが、漢字の形に着目すると、どれも「もとめる」の部分が共通しています。また、どれも「きゅう」という音です。このように、同じ部分を持つ漢字は、形ばかりでなく音も共通する場合があります。

次の各文の「」の中の言葉に当てはまる漢字を、後の漢字から選びましょう。どの部分が共通でどんな読み方でしょうか。

1.

- (1) 警備を強「か」する。
- (2) 県庁のそばの桜が開「か」した。
- (3) 蒸気機関車が、「か」物列車を引っ張る。
か(ば__ける) か か(はな)

化 貨 花

2.

- (1) 「せい」潔な洗面所で顔を洗う。
- (2) 冷「せい」な判断で、物事に対処する。
- (3) あの「せい」年は、銀行に就職した。
- (4) 「せい」天なので、洗濯物を干す。
せい(しず__か) せい(きよ__い) せい(は__れる) せい(あお)

静

清

晴

青

3.

- (1) 乳児の体重を「そく」定する。
- (2) 規「そく」正しい生活をする。
- (3) 箱の「そく」面に名前を書く。
そく そく (がわ) そく (はか__る)

則

側

測

(同じ部分と意味)

同じ部分を持つ漢字は、意味のうえでつながりがあります。

1. ぎょうにんべん — 「行く」や「道」などの意味を表す漢字に使われます。

- (1) お城と駅の間を、「徒」歩で「往復」する。
- (2) 「待」ち合わせの30分「後」に着いた。
- (3) 係の人の指示に「従」って、裁判所を見学する。

ぎょうにんべん と おう ふく ま__つ ご (あと) したが__う
イ 徒 往 復 待 後 従

2. にくづき — 元は「肉」で、体に関係のある漢字に使われます。

にくづき のう ぞう い はい ちょう
月 脳 臓 胃 肺 腸

次の部分が表す意味を確かめましょう。

うかんむり てへん りっしんべん りっとう
冫 扌 忄 冫

(*部首は裏点枠囲みとする)

[資料56] 「漢字の広場 5年生で習った漢字2」 (6年 P73)

5年生で習った漢字 — 次の言葉を使い、遊園地での人々の行動を考えて、文章に書きましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

まず、遊園地の入り口で、入場「券」を買います。

「貸」し出し 入場「券」 「確」かめる 「略」図 「規則」
 がびょうで「留」める 「支」える 「銅像」 「仮」面 「似」顔絵
 たべものの「容」器 「比」べる 「余」る 「酸」味 「増」やす 「減」らす
 順「序」 「祖」父 「断」る 「条件」 「可能」 「許可」
 大「勢」 「混雑」

[資料57] 「ようこそ、私たちの町へ」 (6年 P80)

(取り上げる題材について書き出した例)

交流している〇〇小学校のみんなに、町のよさを伝える
 →行事→ライラックまつり、雪まつり、大通公園
 →産業
 →食べ物
 →自然の景色→豊平峡
 →人物→クラーク博士
 →施設・名所→時計台→札幌のシンボル、130年以上動いている、国の重要文化財
 →北海道大学農学部の施設
 →施設・名所→赤れんがの旧本庁舎→国の重要文化財→北海道大学農学部の施設

[資料58] 「ようこそ、私たちの町へ」 (6年 P81)

3 構成を考えよう。
全体の構成と、それぞれのページの割り付けを考えましょう。

(全体の構成例)

一度は行きたい「札幌の文化財めぐり」	・・・・・・	(表紙・目次)
1. 重要文化財マップ	・・・・・・	2
2. 鐘の音ひびく、札幌のシンボル — 時計台	・・・・・・	3
3. 250万個の赤れんがが歴史を刻む — 北海道庁旧本庁舎	・・・・	4、5
4. 「クラーク博士の理想」 — 北海道大学農学部の施設	・・・・	6、7
(資料) 札幌の文化財一覧	・・・・・・	(終わりのページ)
———仕切り線———		
熱気あふれる「さっぽろ雪まつり」	・・・・・・	(表紙)
1. 目次・さっぽろ雪まつり会場地図	・・・・・・	2
省略		

(ページの割り付け例)

表紙 — 題名, 目次
それぞれのページ — 見出し, 本文, 写真
終わりのページ (裏表紙) — 参考資料など

[資料59] 「熟語の成り立ち」 (6年 P86)

熟語の成り立ち (言葉)
(漢字2字の熟語)

2字の漢字からできている熟語の成り立ちには、次のようなものがあります。

1. 似た意味の漢字の組み合わせ — 創造 (つくる, つくる)
2. 意味が対になる漢字の組み合わせ — 縦横 (たて, よこ)
3. 前の漢字があとの漢字を修飾する関係にある組み合わせ — 山頂 (やま, いただき)
4. 「・・・を」「・・・に」に当たる意味の漢字があとに来る組み合わせ — 洗顔 (あらう, かお)

次の熟語は、1. ~4. のどの組み合わせでしょう。漢字の意味から考えましょう。

忠誠 (まごころ, まこと)
養蚕 (やしなう, かいこ)
海底 (うみ, そこ)
玉石 (ほうせき, いし)
帰国 (かえる, くに)
仁愛 (思いやり, 愛する)
公私 (おおやけ, わたくし)
温泉 (あたたかい, いずみ)

[資料60] 「漢字の広場 5年生で習った漢字3」 (6年 P91)

5年生で習った漢字 — 次の言葉を使って、作家になったつもりで、ぼうけんの物語を書きましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

ある日、まほう使いのもとに、友だちから招待状がとどきました。

まほう使い 「招」待「状」 ねこを「飼」う ふねが「現」れる 「移」動 「快適」
「暴」風雨 「非常」事「態」 「破損」 「墓」場 「独」りぼっち 「迷」う 「限」界
「険」しい 「枝」 「夢」 強「敵」 「絶」望 正「義」 「退」散 感「謝」 「質」問
博「識」 ねこと「再」会 とりの「群」れ 「舌」なめずり 「久」しぶり

[資料6 1] 「漢字の広場 5年生で習った漢字4」 (6年 P105)

5年生で習った漢字 — 次の言葉を使って、テレビ局で見学したことについて、家の人にわかりやすく伝える文章を書きましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

第1スタジオでは、国「際」「情勢」をテーマにした番組のさつえいをしていました。

会議室 — 番組「制」作 「提」案 「資」料 「複」数
第1スタジオ — ニュース 石や岩などの「鉱」物 「輸」入 「貿易」
利「益」 国「際」「情勢」 「解」説 「報」道
第2スタジオ — 歌番組 「準備」 「設営」 指「示」 長さを「測」る
第3スタジオ — 「武」士 「貧」しい 「演技」 「妻」 「質素」 指「導」
第4スタジオ — クイズ 正「解」 「逆」転 成「績」
第5スタジオ — 討論 「税」金 主「張」 「述」べる 「賛」成 「政」治家

[資料6 2] 「この絵、私はこう見る」 (6年 P148)

1. 絵を見て、読み取ったことや感じたことを書き出す。

アンリ・ルソーの「猿がいる熱帯の森」という絵があります。この絵を鑑賞するときには、次のようなことを手がかりにします。

何 だれ どこ いつ 大きさ 色 形 ポーズ 動き 音 におい 天気や温度など 何を表しているか
不思議だ、わからないと感じるところ 絵をかいた人の思い

(読み取ったことと感じたこと)

サルがたくさんいる。 — 楽しそうに遊んでいるように見える
花がさいている。 — ジャングルだから、とても暑いのだろう

[資料6 3] 「漢字を正しく使えるように」 (6年 P151-152)

どの漢字を使うか迷ったり、誤った漢字を使ってしまったりしやすいものに、「同じ読み方をする漢字」があります。

どの漢字を使うか迷ったときには、次のように考えてみましょう。

1. 訓読みの場合

(1) 漢語で言い表してみる。

穀物を収納庫に「うつす」。(移動の「い」, 写真の「しゃ」)

杉浦 「この『うつす』は『移動する』と言いかえられるな。だから…。」

(2) 別の訓読みで言い表してみる。

部屋のまどを「あける」。(あかるい, ひらく)

稲垣 「『まどをあける』というのは、『まどをひらく』と言いかえることができる。ということは、…。」

(3) その漢字を使った熟語を考えてみる。

延長戦の末、「やぶれる」。(敗戦の「はい」, 破壊の「は」)

菊池 「『敗退』『敗北』, 『破損』『連破』…。試合に負けるという意味を表す言葉に使われているのは…。」

2. 音読みの場合

その漢字の訓読みを考えてみる。

「ショウ」人数で学習をする。

宮井 「大小の『小』の訓読みは『ちいさい』, 少年の『少』の訓読みは『少ない』。『しょう』人数は、『すくない人数』ということだから…。」

3. 1. と2. のいずれかの方法を使い、「 」で示した部分を同じように考えてみましょう。

(1) 墓前に花を供え、「まわり」の草を取る。(回転数の「かい」, 周囲の「しゅう」)

(2) 指示に従って、作業が予定どおり進むよう「つとめる」。(通勤の「きん」, 努力の「ど」, 任務の「む」)

(3) 温かいスープが「さめる」。(おぼえる, ひえる)

- (4) 諸国を旅して、見「ブン」を広める。(き__く, ふみ)
 (5) 試合再「カイ」のアナウンスに、観衆は喜んだ。(あ__う, ひら__く)

4. 次の「 」で示した部分は、読み方が同じであるためにまちがえやすい漢字の例です。正しい漢字を使うためには、どのように考えればよいでしょうか。

- (1) すずしい「こ」かげで休む。
 (2) 独り「ごと」をつぶやく。
 (3) 交「たい」で金魚の世話をする。
 (4) 二つの作品を対「ひ」する。

漢字を正しく使うためには、自分が書こうとしている意味と、使おうとする漢字の意味を、いつも考えるようにしましょう。

[資料6 4] 「漢字の広場 5年生で習った漢字5」 (6年 P171)

5年生で習った漢字 — 次の言葉を使って、商店街の通りやお店の中の様子を、文章に書きましょう。会話も想像して入れましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

「弁」当屋では、半「額」セールが始まりました。さっそく、「二つください。」と注文が入りました。

ぎんこう — 「預」金 「応」対 「犯罪」 「防」止 「職務」
 こめや — 米「俵」 「精」米 「承」知
 けんけつの一む — 血「液」を「採」る
 「眼」科 — 医「師」 くすりが「効」く
 百円しょっぷ — 百円「均」 — 「価」格 「徳」用品 「豊」富
 しゅげいてん — 「布」 綿「織」物 「編」み物 「領」収書 「興」味
 がろう — 芸「術」 「個性」的 「評判」 「版」画
 「べん」とうや — 「弁」当 「衛」生 清「潔」 半「額」 「接」客
 とおり — 夕「刊」 「厚」着

[資料6 5] 「漢字の広場 5年生で習った漢字6」 (6年 P189)

5年生で習った漢字 — いつ、どんなことがあったか、そのときどんな気持ちだったか、次の言葉から想像し、文章に書きましょう。5年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

(例)

6年前、校「舎」の周りの「桜」が満開のころに、小学校に入学した。

入学式 — 「桜」 校「舎」
 家 — 学習の習「慣」
 クラブ活動 — 所「属」 「基」本
 「授」業 — 「恩」師
 友達 — 友「情」 「永」久
 社会見学 — 「製」造 「過」程 「効」率
 「修」学旅行 — 新「幹」線
 運動会 — 「総」力 「団」結 「圧」勝
 新聞づくり — 「編」集 「経」験 「構」成をきめる
 話し合い — 「責」任 「統」一
 卒業式 — 卒業「証」書 大「志」 学校の「講」堂 「在」校生

[資料6 6] 「カンジー博士の山登り」 (6年 P196-197)

読み方山

1. 「 」で示した部分の漢字が違うものはどれか。
 - (1) しょ「か」
 - (2) 「か」おく
 - (3) 「か」ぞく
2. 次の「し」の漢字の中で、「す」という読み方を持つものはどれか。
 - (1) 活動の「し」援
 - (2) 綿「し」
 - (3) 花の種「し」
 - (4) 「し」亡事故
3. 次の「 」のなかで、違う漢字で書くものはどれか。
 - (1) 体の調「し」
 - (2) 授業の開「し」
 - (3) 白い帽「し」

使い方山

4. 次の文の中で「役目を果たす」という意味の「つとめる」はどれか。
 - (1) 株式会社に「つとめる」。
 - (2) 聖火ランナーを「つとめる」。
 - (3) 映画の宣伝に「つとめる」。
5. 次の「おさ__める」と同じ漢字を使うのはどれか。
問屋に絹織物を「おさ__める」。
 - (1) 父の「しゅう」にゅう
 - (2) 「のう」税の期日
 - (3) 「しゅう」学旅行

送り仮名山

6. 「 」で示した漢字の中で、送り仮名がまちがっているのはどれか。
 - (1) 鉄鋼の輸出量が「増__えた」。
 - (2) 生産の拡大を「試__ろみた」。
 - (3) お地蔵様を「拝__んだ」。
7. 「 」で示した漢字の中で、送り仮名が正しいのはどれか。
 - (1) りっぱな業績を「残__こす」。
 - (2) 通訳になることを「志__ざす」。
 - (3) 父の郷里を「訪__ねる」。

[資料6 7] 「中学校へつなげよう」 (6年 P220)

(読む)

1. 本と出会うとき
 - (1) 楽しんで読むために
 - (2) 知りたい情報を得るために
2. 物語を読むとき
3. 音読・朗読するとき
4. 説明している文章を読むとき
5. 読んで自分の考えをもつとき
(話す・聞く)
 1. 話を聞くとき
 2. 話し合うとき
 3. 発表するとき
(話す・聞く、書く)
1. 話題を決めるとき
2. 情報を集めるとき

(書く)

1. 文章を組み立てるとき
2. 文章を書くとき
3. 文章を見直すとき
4. 書いたものを伝え合うとき

(言葉)

1. 言葉の特徴と決まり
2. 古典
3. 漢字

[資料68] 「考えを助ける図表」 (6年 P260)

1. 発想を広げる

テーマを表す言葉を書き、思いついた事がらを順に書く。つながって思いつく事がらは矢印でつなぐ。
アイデアを…

(小学校のよいところ)

〇〇小学校

→緑が多い→大きな桜
→行事→運動会, かるた大会
→縦割り班→グループ給食
→給食→グループ給食, おいしい→地元の野菜

2. 分類して考える

集めた事がらを一つずつ書き出す。似ている…
たくさん…

(学校図書館への要望)

1. 本について

昔話が少ない
紙しばいも置いてほしい
破れている本がある

2. 設備について

いすを増やしてほしい
低学年には, 本だなが高い

…

3. 流れで考える

時間の順序に沿って行動を書く。二つに分かれるところもある。
手順を…

(学級新聞を作る手順)

1. 内容を決める

2. 記事の担当を決める
3. 本で調べる, 人にきく
4. 記事を書く

…

4. 同じ点とちがう点で比べる
二つの物事について…
(新聞とテレビの同じ点・ちがう点)

1. 共通の特徴
多くの人に伝わる
編集されている

2. 新聞の特徴
文字と写真
切りぬきができる

3. テレビの特徴
音声と映像
すぐに伝わる

5. 観点を挙げて比べる
物事をどのような観点で比べたいか、はっきりと観点を挙げてから内容を書く。
観点ごとに…
(水溶液の性質)

調べた観点
(1) 様子
(2) におい
(3) 蒸発させると残るもの
(4) リトマス試験紙の変化

1. 食塩水
(1) 水と同じ
(2) なし
(3) 白い物
(4) 青→青, 赤→赤
2. アンモニア水
(1) 水と同じ
(2) あり

…